

平成28年度 東近江市社会福祉協議会事業報告

平成28年度は、社会福祉法人の改革を柱とした「社会福祉法」の改正を受け、定款の全部変更を理事会、評議員会に諮るなど、本会においても大きな変革の一年でありました。多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するため公益性と非営利性を備えた社会福祉法人の役割はますます重要になっています。とりわけガバナンスの強化や事業運営の透明性向上、財務規律の強化が求められています。改めて本会は地域福祉の専門職として、市民の暮らしづらさに寄り添いながら、日々の業務に精励しなければならぬと認識を深めました。

また、28年度は今後5年間の地域福祉活動を推進する指針である「第2次地域福祉活動計画」の策定を行いました。本計画の策定にあたっては、多くの市民の皆様のご意見やご提案をもとに、6項目の推進目標を定め、市内14地区においてまとめられた地区住民福祉活動計画と合わせ、正に市民の手作りによる市民目線の計画となりました。

さらに、新しい地域支援事業への取り組みとして市域を対象とした第1層協議体、そして地区域を対象とした第2層協議体の設置に向けた検討をはじめ、介護予防につながる集いの場の発見、生活支援サポーター養成講座などに取り組みました。

また、ボランティアセンターのあり方についても市民の方を交え議論を行いました。

職員の能力向上(人材育成)と組織力強化、高い介護サービスの提供を行うため、「人事考課制度」を設計し、平成29年度(試行)から実施致します。また、毎週水曜日のノー残業デーの徹底や労働者のストレスの程度を把握する「ストレスチェック制度」が施行され、本会も主に正規職員を対象に健全な職場改善につなげる取り組みを行いました。

一方、介護保険事業に関しては、介護保険制度の改正も視野に、本会介護事業所のあり方や事業推進の方法、事務改善や研修、事業所の広報のあり方等について事業管理者らが定期的に協議し、財政基盤の充実に努めました。

さらに、本会の大きな自主財源である会費については、時代に即応した事業への適正な活用を図ると共に市民の皆様に使途内容を具体的に示し、納得して納入していただけるよう透明性を高めました。

命と暮らしを支えるしくみづくり

① 相談支援活動の充実

各課が連携し、社協全体で住民の困りごとを解決できるように取り組みました。

1. 職員による相談支援の充実

職員一人ひとりが相談員であり、本所と各事業所の 14 拠点が住民の相談窓口であることを意識して相談に応じました。

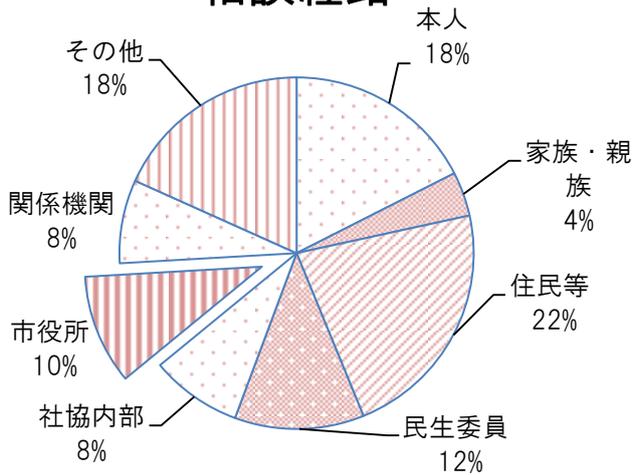
相談件数(地域福祉権利擁護事業・家計相談支援事業・貸付事業

・居宅介護支援事業・指定特定相談事業を除く)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度比較
相談件数	5,380	5,220	4,242	-978
うち個別支援	644	693	432	-261

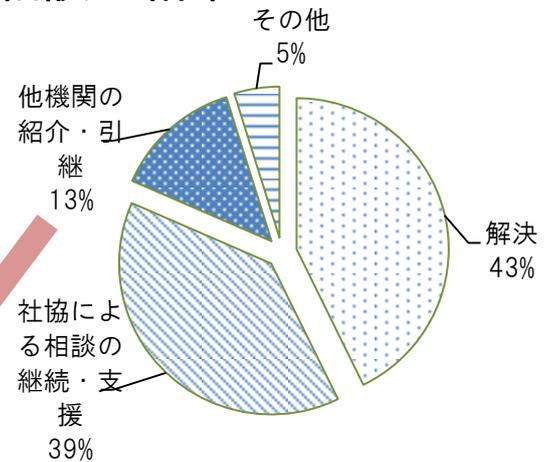
相談の動向を知るためのデータとして、また相談実績を『見える化』するためにも、平成 29 年度は、数字の積み上げを意識して取り組んでいきます。

相談経路



地域住民の方からの相談が前年度と比較し 15%増加

相談の結果



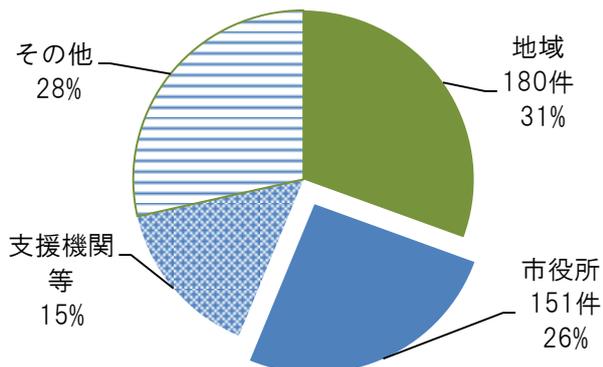
このうち 432 件が個別支援の相談につながり、相談支援課の各事業で支援をしています。

制度で対応できない相談は、相談支援課で継続して支援をしています。

相談のうち 428 件が市役所からの相談です。受けた相談のうち 151 件は市役所につないでいます。

日常的に市役所との連携が多くなっています。

他機関の紹介・引継先



2. 在宅福祉サービスの実施と相談機能の充実

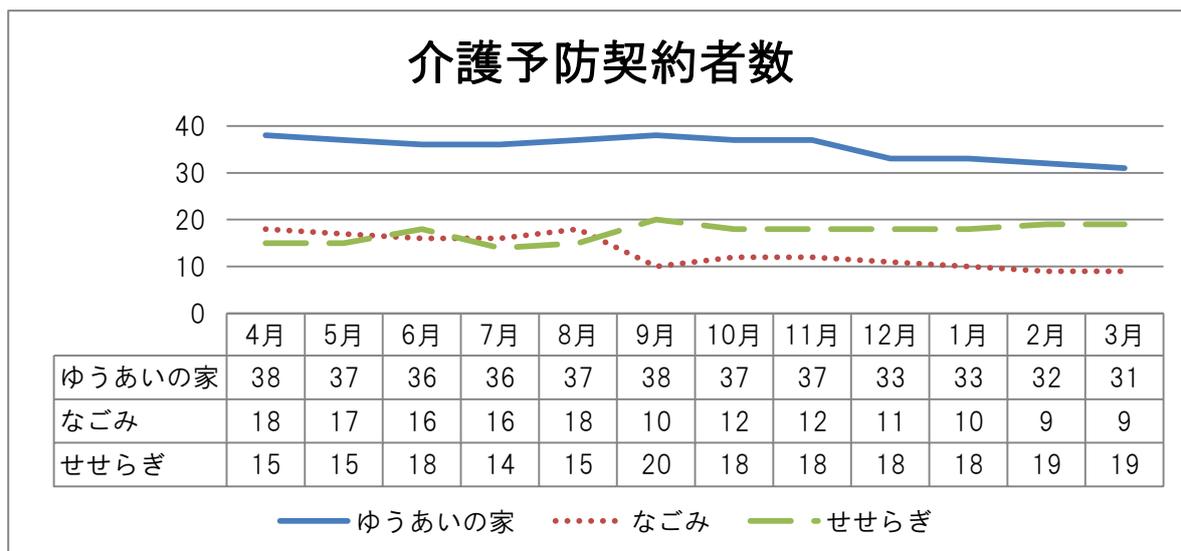
在宅福祉サービスを通し、利用者世帯が抱える生活課題全体を把握し、地域で安心して生活できるよう関係機関につなぐことや地域福祉活動との連携を図りました。

(1) 介護保険事業

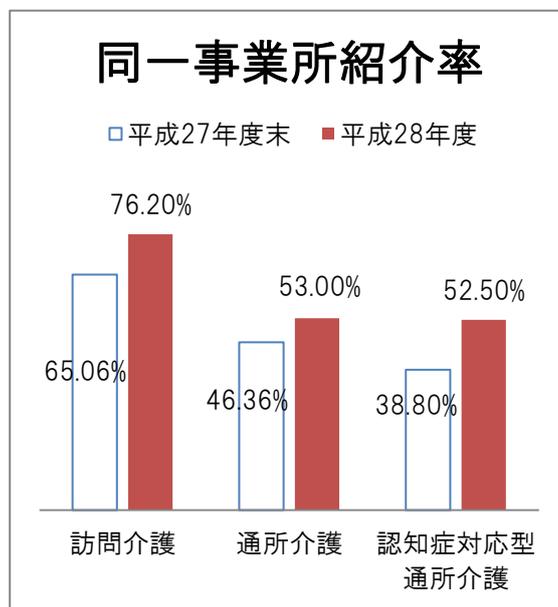
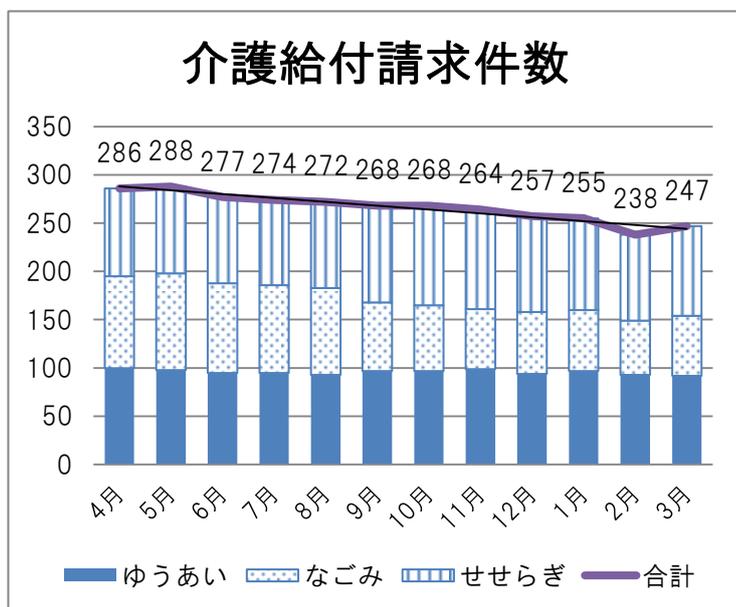
①居宅介護支援事業・介護予防支援ケアマネジメント

利用者や家族の生活課題に着目したケアプランの作成を目指しました。

介護支援専門員の気づきを、住民の見守り活動や社会資源の開発に活かせていないことが課題です。



予防給付は、契約件数と請求件数に差はほとんどありません。



延べ契約者数 3,483 件に対し、請求件数 3,194 件。契約件数との差－289 件をどう埋めていくかが課題です。

また、各事業所に介護支援専門員を3名配置で実施してきましたが、9月に居宅介護支援事業所なごみより、介護支援専門員1名を計画相談員(指定特定計画相談事業)に異動しています。異動者1名が担当していたケースは、3事業所で分担したので、全体の件数としては大きな変化はありません。3事業所で東近江市全体を担当する契機となりました。

新規契約者46件のうち、社協の通所介護に31件、訪問介護に17件を紹介しています。

②訪問介護（介護予防）事業

ヘルパーステーション4事業所の地域特性を活かし、利用者からの相談には他課や他機関、ボランティアグループと連携をし、地域での暮らしを支えられるように働きかけました。

事業所名称	特徴的な取り組み
ハートピア	<ul style="list-style-type: none"> ・地区住民福祉活動計画の懇談会には担当地区を決め、できるだけ参加することで地域の現状と課題を知り、ヘルパー間でも共有することで、総合事業への移行にともなう支援について考える幅が広がりました。 ・終末期の利用者で訪問回数が増えた方についてハートピアだけで対応できず、ゆうあいの家、せせらぎに応援を頼み、最後まで支えることができました。利用者からは、「家に帰ってこられてうれしい。」家族からは「家族の不安な気持ちも支えてもらった。家族だけの排泄介護はできなかった。」との声をいただきました。 ・直行・直帰の導入により効率的な訪問と、時間外勤務の削減ができました。
ゆうあいの家	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン等に出向き、オムツの使用方法等の講習をしたことがきっかけになり、住民から相談を受けケアマネジャーにつながり、あらたな支援につながったケースがあり、相談者から「抱えていた困りごとが少し解決に向かったことで安心した」。と言われ、ヘルパーとして地域に出向くことでも身近な相談窓口になれることを実感しました。 ・一時期、利用者の訪問時間、訪問日が重なりゆうあいを家の職員だけで対応できず、せせらぎからのフォロー体制があり、乗り切ることができました。
なごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーについて知ってもらうためサロンや生活支援サポーターの会議に出席し、地域住民と顔見知りの関係になったことで訪問途中に声をかけてくださり住民から介護の相談を受け、関連機関につなぐことができました。 ・小学校へ福祉教育に出向き、学習後、子供たちから祖父母への接し方が変わったことや介護の仕事はやりがいがあると感じたという手紙をもらい、継続して福祉教育への取り組みの必要性を感じました。
せせらぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者低迷時、事業所のパンフレットを持参し、居宅介護事業所に訪問したことで新規利用につながりました。 ・蒲生地区ミニ三方よし会（他職種による集まり）に参加することで、共通の利用者について幅広い視野で支援が考えられるようになりました。 ・地域の防災訓練に参加し、車いすの使用法や家にあるもの（毛布、座布団）を使用した移動の方法を伝えたところ新しい気づきとなったと喜んでいただきました。

【評価】

平成28年度は社協内の事業所でフォロー体制をとりながら、担当地域をこえ事業展開できたことで利用者の「最後まで家で暮らしたい」という気持ちにこたえられたことや家族から「心の支えになった」と言ってもらえたことは、介護をするだけでなく精神的な支援にもつながりました。今後も担当地域にこだわらず、社協で東近江市全域を支えていけるよう連携していきます。

地域福祉活動や福祉教育に出向くことで、地域の現状や、課題を知ることができたことや、顔見知りの関係ができることでヘルパーが介護の相談窓口になれること、ヘルパーの仕事への理解が深まったことを実感しました。このことは社協のヘルパーだからこそできることだと考え、今後も継続して地域に出向き、在宅生活を継続するためにはどのような支援が必要か手がかりをつかみたいと考えます。

③訪問入浴介護（介護予防）事業

事業所名称	特徴的な取り組み
ゆうあいの家	28年度になり社協以外の参入事業者がありましたが終末期を支えるにあたり、入浴も他の日も同事業所のヘルパーが訪問することで、利用者家族から「連絡も取りやすく、状態をよく知ってもらっていると安心だ」との声をいただきました。

【評価】

永源寺地区において訪問入浴の参入事業者はありましたが、訪問介護と一体的に行っている事業所として生活全体を見て状況報告ができることは、利用者家族医療関係機関から早期対応ができると言われています。この強みを今後も活かしていきたいと考えています。

地域の中で訪問入浴について知られていないので、サロン等を見て知ってもらえるDVD作成等が必要だと考えています。

④通所介護（介護予防）事業

東近江市内5事業所を展開する中、利用者への支援方法やサービス内容の情報共有や意見交換を行うことで、事業所の特徴を活かしたサービス提供へと繋がりました。会議等を通じて、各事業所のサービス内容の確認と検討を行い、介護保険制度についての再確認を行いました。各事業所の様子を知ることで、利用者への関わり方などを共有し、対応につなげることができました。しかし、統一を図れる業務など、運営していく中で改善できる所が見られます。各事業所の職員と相談や連携を行い利用者さんへのサービス提供に向けて取り組んでいきたいと思えます。

○通所介護事業所研修について

介護職員を対象とした研修では、利用者への介護サービスの基本的な考え方や介護技術の共有を行うため、28年度より在宅福祉課全体での介護技術研修を行

いました。研修日を2日設けることで、参加できない職員を極力なくし、全体が同じ研修を学べるようにしました。

利用者の残存能力を活かした活動や生活意欲への向上、運動機能訓練を実施しました。「歩いて、出掛けたい」「買物に出掛けてみたい」という思いを利用者の身体や心身状況、環境などを考慮して行いました。動作確認を行い、ご自身でできるところ、できないところの様子を見ながら支援につなげています。

調理員研修では、提供している手作りおやつを持ち寄っての意見交換や衛生管理について学習会を行いました。

日程	内容	日程	内容
6月20日	I介護技術（基礎編）	11月14日	第1回介護技術研修（姿勢編）
6月27日	I介護技術（基礎編）	1月17日	第2回介護技術研修（食事、排泄）
10月24日	介護技術の基本I	1月23日	第2回介護技術研修（食事、排泄）
11月8日	第1回介護技術研修（姿勢編）		

日程	内容	日程	内容
11月8日	第1回機能訓練研修	1月13日	第2回機能訓練研修
11月14日	第1回機能訓練研修	1月13日	第2回機能訓練研修

日程	内容	日程	内容
4月21日	第1回調理員研修（意見交換）	11月8日	第2回調理員研修（衛生管理）

【評価】

研修では、利用者自身への関わり方について職員全体が共有を図ることができ、利用者へのケアの方法の検討や改善点を検討する機会が持てました。研修の内容を活かし、利用者の状態に合わせた環境や介助方法を整えることができました。また、支援方法や視点の持ち方など考える幅が増え、事例検討を通じて、実際のケアにつなげることができました。

また、事業所からは「介助方法を見てほしい」「環境を見てほしい」という意見が出ていました。来年度は、事業所で実際に行っている介護現場を講師に見ていただくことで、新たな改善案や介護方法の検討が出来ると思います。

調理員の研修では、手作りおやつを持ち寄ったことで、事業所の取り組みについての意見交換が活発に行うことができました。調理の方法など、新たに知ることができ、利用者への食事提供に反映することができました。衛生管理の研修では、調理場の設備状況に不安があるという事業所もありました。環境面の整備が今後の課題となっています。

○通所介護事業の地域交流について

各地域のサロンや福祉教育に参加しています。

ハートピア	ひばり団地サロン (6月15日)	緑町サロン (7月30日)	野口サロン (9月4日)
あさひの	桜川西サロン (5月21日)	木村サロン (7月2日)	市子沖サロン (7月23日)
	鋳物師サロン (7月24日)	葛巻町サロン (9月10日)	長峰サロン (9月17日)
	石塔1区サロン (3月5日)	長峰サロン (3月11日)	
	長峰防災訓練 (9月25日)		
	福祉のまちづくり講座「サロンに役立つレクリエーション」(9月14日)		
	蒲生西小学校交流会 (3月3、7日)		
じゅぴあ	東近江市愛東支所火災避難訓練 (10月12日)		
	愛東版小三方よし研究会・認知症研修 (11月10日)		
	あいとう和楽とクリスマス交流会 (12月23日)		
	愛東北小学校福祉教育 (インフルエンザ流行のため中止)		
なごみ	能登川南小学校福祉教育 (2月3日)		
	能登川中学校3年生高齢者福祉体験 (10月4、6、7日)		
	能登川中学校2年生職場体験 (9月1、2、5、6、7日)		
ゆうあいの家	青野サロン (10月26日)	高木サロン (11月3日)	
	山上小学校1年生交流会 (11月18日)	永源寺中学校福祉体験 (11月9日～15日)	
	永源寺幼稚園交流会 (11月29日)	山上小学校5年生福祉体験 (12月1日)	

【評価】

地域の方からは「自分たちでできない、認知症の話やレクリエーションなどを行っていただき、ありがとうございます。」といった声も聞かれています。

また、学校の福祉学習の一環としての関わりも行っています。小学生との交流では小学生が考えたレクリエーションを利用者さんと一緒に楽しむことができ子どもたちと利用者さんの笑顔があふれていました。

○デイサービスセンターじゅぴあの時間延長について

(9:45～16:00⇒9:20～16:30)

平成28年度より、収入増を目指した時間延長7時間以上9時間未満の営業時間に変更しました。

	平成27年度	平成28年度	前年比
介護給付費	37,314,588 円	39,223,865 円	1,909,277 円
利用料	4,109,610 円	4,413,189 円	303,579 円
雑収入	3,933,726 円	4,488,543 円	554,817 円
合計	45,357,924 円	48,125,597 円	2,767,673 円
延べ利用者数(要介護)	4,061 人	4,443 人	382 人
延べ利用者数(要支援)	1,406 人	974 人	- 435 人
合計	5,467 人	5,417 人	- 50 人

【評価】

平成28年度の利用料収入は、平成27年度と比べると約270万円増えています。

利用者は、4月の時間変更直後は、戸惑われる方もおられましたが、「デイサービスでやりたいこと（創作活動）にじっくり取り組める時間が持てる」などの声がありました。職員の関わりにも余裕が生まれ、個別に関わる時間を多く持てるようになりました。

○看板、パンフレットの作成

事業所PRのための看板設置を予定していましたが、検討を重ねる中で、今回は設置を見送り、看板より効果的なPR方法や周知の仕方について、今後も検討を行っていきます。

パンフレットの作成については、事業所通信として利用者や居宅介護支援事業所に向けて発行を行っています。ご家族からは「家でも見て、事業所の話をしている」。ケアマネからも、「事業所の取り組み内容がわかりやすい」といった声も聞かれます。今後も、通信など日ごろの様子を伝えることができる手段を活用し、利用者と家族にデイサービスでの表情をお伝えしていきたいと思えます。



⑤認知症対応型通所介護（介護予防）事業

○ちやがゆの郷

ちやがゆカフェの開催について

開催日	参加者	利用者数	内容	開催日	参加者	利用者数	内容
4月14日	15名	6名	大正琴	11月10日	13名	4名	ブラックシアター
5月12日	14名	4名	音楽療法	11月10日	10名	3名	音楽療法
6月9日	13名	4名	銭太鼓	12月8日	10名	3名	大正琴
7月14日	13名	4名	音楽療法	1月12日	9名	3名	音楽療法
8月9日	15名	5名	回想療法	2月9日	10名	2名	銭太鼓
9月8日	18名	2名	音楽療法	3月9日	11名	2名	大正琴

2ヶ月に1回の開催から、平成28年度は1ヶ月に1回（毎月第2木曜日）の開催に変更しています。

運営推進会議の開催

第1回運営推進会議（6月30日）

運営推進会の会長および副会長の選任

平成27年度事業報告および収支決算

平成28年度事業計画および収支予算、要望・意見等

第2回運営推進会議（12月14日）

平成28年度事業報告（上半期の報告）、要望・意見等

【評価】

利用者への対応については、少人数ならではの関わりを多く持ち、季節に応じた外出支援（乙女浜地区内の散歩、ドライブ）、得意とされていた食事作りを活かして昼食のお味噌汁作りや認知症状の緩和を目的に音楽療法などの支援を行っています。

利用者数の増加を目指し、乙女浜地区の回覧や居宅介護支援事業所へカフェや通信の配布などを行っています。運営推進会議で意見があったように場所の認知やサービス内容がわかるような周知方法、居宅介護支援事業所との連携の必要性を感じています。



⑥小規模多機能型居宅介護（介護予防）事業

○かじやの里の新兵衛さん

運営推進会議の開催 6回

見守りネットワーク事業

徘徊者早期発見・声かけ訓練のプレゼンテーション 4回

認知症研修会 平成28年10月29日

230人

徘徊者早期発見・声かけ訓練 平成28年11月12日

訓練：18自治会370人 反省会：98人

見守りネットワーク会議 平成28年12月16日

48人

認知症カフェ 12回

夏祭り 平成28年 8月 6日

90人

第1幼稚園との交流会 6回

【評価】

「よもぎ団子作り」「幼稚園との交流会」「夏祭り」「ふれあいフェアへの参加」などたくさんの外出行事や地域の方々とかかわる行事の中で、利用者の得意なことを発揮できる機会を作れたことで利用者の笑顔が見られたことは利用者の生きがいにつながったと考えます。



身体の拘縮が強い方について、ケアマネジャーを中心に医療機関等と連携し支援内容を見直したところ、身体の緊張がほぐれ、家族から介護がしやすくなったと喜んでいただきました。また、褥瘡についてご存知ない家族には、受診時に付き添い、理解していただき早期治療につながりました。今後もケアプラン、デイサービス、ホームヘルプを一体的に行っている利点を生かし、どの場面においても利用者にとってより良い支援を目指します。

設置義務であるスプリンクラーの設置については、補助金を活用し整えることができました。

庭園の管理において高所部分は危険が伴うことが課題になっていましたが、業者に委託することができました。

(2) 障がい（児）者福祉サービス事業

①居宅介護（障がいホームヘルパー）事業の実施

事業所名称	特徴的な取り組み
ハートピア ゆうあいの家 なごみ せせらぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい、精神障がいの特性について相談支援課に依頼し、内部研修会を開きました。共通の利用者もあり具体的支援の考え方を学ぶことができました。 ・利用者が交通事故に合わせ、緊急入院された時には、社協の相談支援専門員や権利擁護事業を利用、その母も介護保険でハートピアの訪問介護を利用されていたこと、また民生委員の協力のもと家族支援を含めての緊急対応がスムーズにできました。 ・家族が利用者の精神不安による行動に困っておられ、緊急の訪問依頼がありましたが、依頼を受けたことで家族から、安心して在宅生活を継続することができると喜んでいただきました。

【評価】

利用者が緊急入院時、高齢の母を残し入院することに不安を感じておられましたが、早期対応できたことで、安心して治療を受けられました。また、民生委員に状況報告をしたことで地域での見守り体制を増やし、既存の支援だけでできないことを（ゴミ捨て等）協力してくださったことは、在宅福祉課だけでなく社協全体の機能が発揮できたと考えます。日頃から、各部署とつながり、利用者の不安な気持ちに寄り添う支援につなげていきます。

相談支援課に研修依頼をし、身近な課題について話し合えたことですぐに支援に活かすことができました。せせらぎでの実施だったため今後、他事業所にも広げていきたいと考えています。

②相談支援事業（一般相談、指定特定相談支援事業）

計画相談員2名体制で実施しましたが、年度途中で1名の欠員が出たため、9月より新体制での2名実施となりました。

○一般相談

相談者の述べ人数は590人、相談件数は1,287件。

総合相談に寄せられる相談の中で、困りごとの背景に障害が関係している相談について、専門的な視点で相談に応じました。

○指定特定相談支援事業

平成 29 年度 3 月末時点の契約件数は 183 件。うち、新規契約 14 件。

一年間の計画作成 153 件、モニタリング 157 件。

介護保険制度の居宅介護支援請求と異なり、計画作成月とモニタリング月しか報酬がないという制度の課題が運営上の課題になっています。

(3) 在宅関連受託事業(市からの委託事業)

① 高齢者福祉関連

事業名	委託元	実施事業所等	契約者数 (人)	延利用者数 (人)
介護予防ケアマネジメント	市	各ケアプランセンター (3カ所)	居宅介護支援で報告	
生活管理指導員派遣事業	市	各ヘルパーステーション (4カ所)	0	0
高齢者虐待対応短期宿泊事業	市	ゆうあいの家	0	0
生活管理指導短期宿泊事業	市	ゆうあいの家	0	0
住居提供事業	市	ゆうあいの家	2	169
認知症高齢者 見守りネットワーク事業	市	認知症対応通所介護ちやがゆの郷 小規模多機能型居宅介護かじやの里の新兵衛さん		

【評価】

住居提供事業について前年度利用者が要介護状態となり、この事業の対象外となりました。新規 2 名と利用者数は減少しましたが、離れて暮らす家族からは「母からの不安の電話がかかることなく冬が過ごせた」利用者からは「家族が訪ねてくれるにもゆうあいの家がある高野なら心配ない」と喜ばれました。また、往診もしてもらわれ身体状況への不安も解消されたようです。平成 28 年度は積雪量が多く、山間部の方の命と暮らしを守るために重要な事業と再確認しました。

②障がい児(者)福祉関連

○外出支援事業

事業名	事業所	延契約者数(人)	延利用者数(人)
移動介護サービス	なごみ・せせらぎ	22	123
ガイドヘルプサービス	各ヘルパーステーション (4カ所)	84	199

○地域活動支援センターⅡ型事業（障がい者デイサービス事業）

事業所	延実人数(人)	延利用者数(人)
障害者デイサービスセンター ハートピア	26	1,048
能登川障害福祉センター 水車野園	33	1,381
合 計	59	2,429

【評価】

デイサービス通信や事業案内を持参し相談事業所や作業所を回る中で、「土曜日開催をしてほしい」との声を聞き余暇活動として土曜日の事業開催につながりました。新規で利用したいという問い合わせがあり平成29年度の活動につなげていきたいと考えています。

水車カフェや水車野園祭り等に取り組み、地域の方との交流が図ることができました。地域の中の開かれた施設となるよう今後も継続します。



(4) 在宅関連自主事業

①在宅生活継続支援訪問介護サービス（おたすけサービス）

事業名	延実人数(人)	延利用回数(回)
	28年	28年
各ヘルパーステーション (4ヶ所)	34	23

【評価】

介護保険では支援できない衣替えや施設入居中の方が一時帰宅された際の介護支援を行いました。ご家族、利用者からも「いつでも家に帰ってこられる安心感がある」と言ってくれました。延人数は増えましたが、定期的に利用されていた方がなくなられたため延利用回数が大幅に減となっています。

② 訪問介護同行訪問実習

(びわこ学院大学19名 彦根総合高校2名)

③ 教育免許法に基づく介護等体験

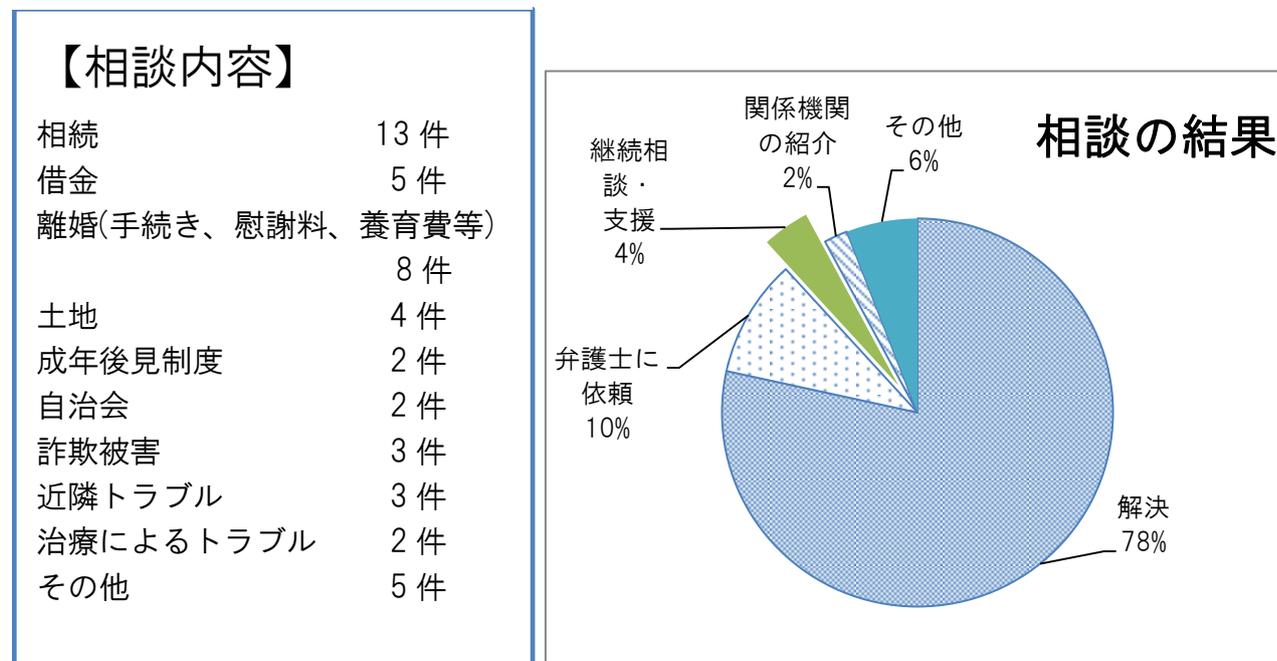
(大谷大学1名 京都教育大学1名 滋賀大学1名 京都女子大学1名
京都橘大学1名 びわこ学院大学1名)

3. 法律相談の実施

ふだんの暮らしの中での困りごとに、顧問弁護士が法律の立場から助言を行う無料法律相談を実施しました。

あらかじめ、相談概要を職員が聞きとりをし、法律的な助言を得たい点を整理し、相談時も同席し、弁護士との相談時間が有効な時間となるよう支援を行いました。

相談件数 47 件（前年度比+12 件）



相続、借金、離婚に関する相談が多い傾向は変わりません。

解決と弁護士に依頼を合わせると 9 割弱が、弁護士から助言を受け、困りごとの解決方法をみつけることができます。

弁護士から助言をもらい、これからどうしたらいいかと悩まれることも多く、継続して相談支援課で相談に応じています。

4. 生活福祉資金・小口貸付資金による生活支援

住民の抱える困りごとを聞き、課題解決のために一時的に資金が必要と判断した場合に、資金の貸付をしました。資金の貸付だけでなく、返済開始後の生活状況の把握が十分にできていないことが課題です。

生活福祉資金(県)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度比
相談者数	73	259	272	13
相談件数	579	514	509	-5
貸付件数	49	24	35	11
貸付金額	15,501,000	17,979,000	16,233,000	-1,746,000

貸付条件に合わないことが多く、相談者数に対して、貸付件数は 13% 弱です。

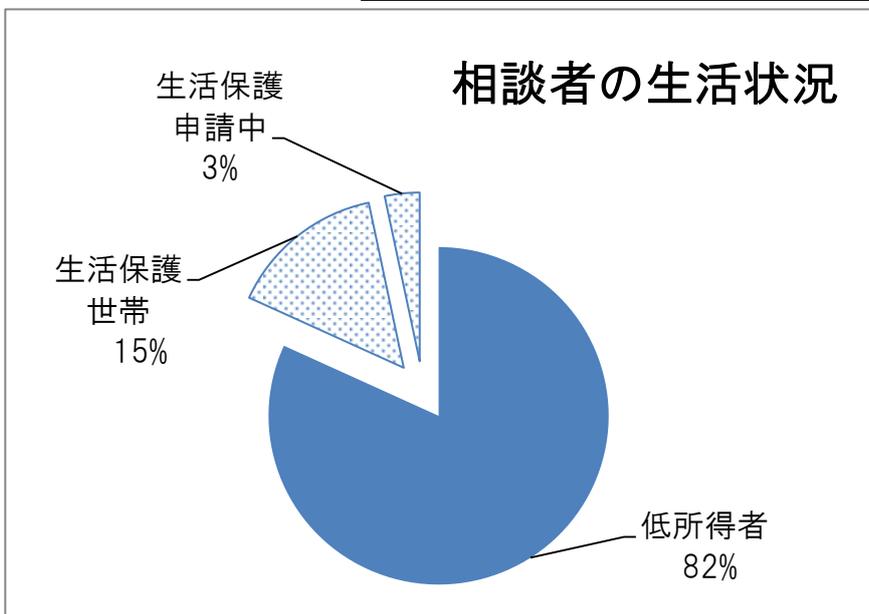
小口貸付資金(市社協独自)

	平成 26 年度 (相談支援課設置)	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度比
相談者数	42	162	104	58
相談件数	249	293	183	-110
貸付件数	30	40	19	-21
貸付金額	898,000	1,055,000	435,000	-620,000
償還件数	197	181	141	-40
償還金額	1,279,570	1,192,200	745,200	-438,000

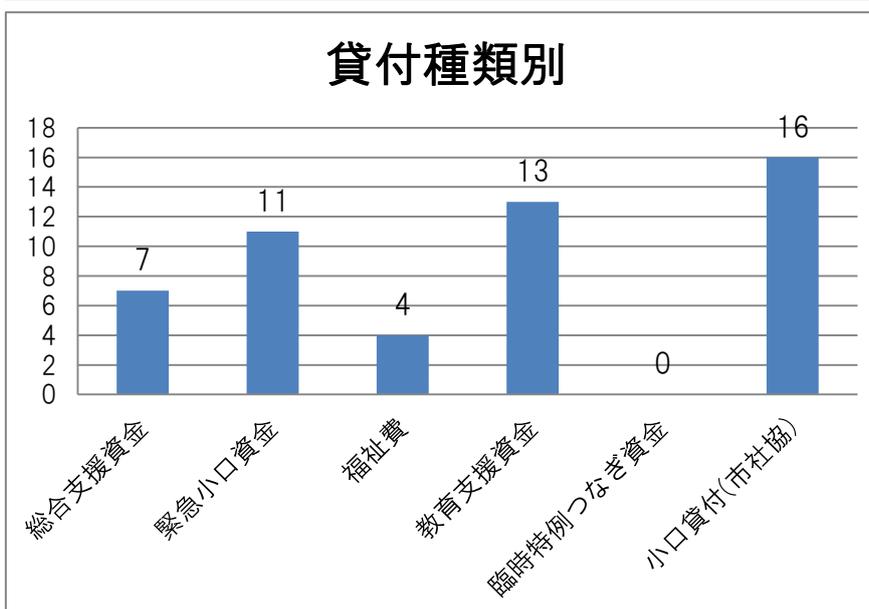
善意銀行の緊急食糧や寄付物品による食糧支援、家計相談員による家計のやりくりの助言等により、貸付件数は減少しています。

また、相談の際に生活状況を詳細に聞き取ることにより、1 件あたりの貸付金額も減少しています。

生活福祉資金と比べ、即応性と柔軟性のある本会独自の貸付は、相談支援に不可欠なツールになっています。



生活保護世帯の場合、『光熱費がいつもより高くて生活費がまわらない』『電化製品が故障したので買い替えなければいけない』など、一時的な出費による相談が多くなっています。



教育支援資金—母子家庭の子の高校進学費用に関するものが 12 件。

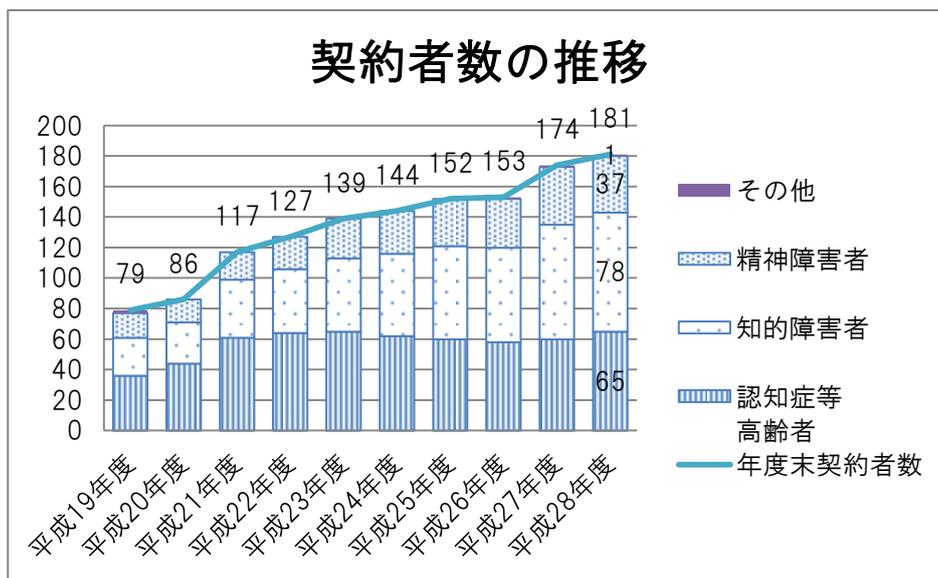
総合支援資金—失業者の再就職までの生活費を貸付けるものですが、なかなか就職がきまらず、3 名の方が貸付の延長をされています。

緊急小口資金—申請から資金の振込まで 2 週間程度を要し、また、条件に合わないことも多いのが現状です。

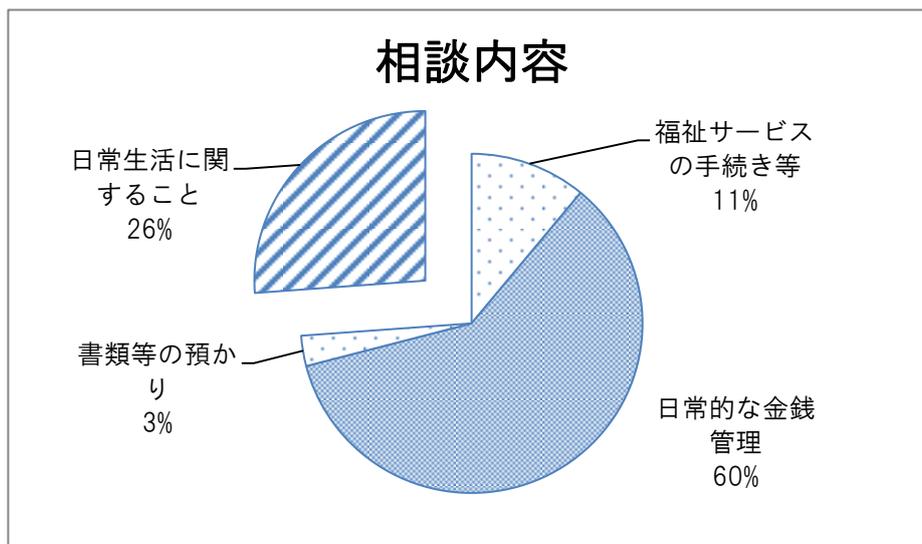
小口貸付(市社協独自)—緊急性が高く、生活福祉資金の条件に合わない場合、本会独自の貸付を利用することが多くなっています。

5. 地域福祉権利擁護事業の実施

認知症高齢者・知的障害者・精神障害者等の判断能力が不十分な方に、福祉サービス利用援助・金銭管理サービス・書類預かりサービスを実施しました。



毎年、解約件数に対して、約2倍の新規契約をしていますが、新規相談が月平均5件ほどあるため、相談を受けてから契約までの間に待機してもらっている状況です。



主たるサービス(福祉サービスの手続き、日常的な金銭管理、書類等の預かり)に関するだけでなく、日常生活全般における相談の割合が高くなっています。生活に密着した支援ができていることの表れです。

滋賀県運営適正化委員会による
福祉サービス利用援助(地域福祉権利擁護事業)の監視運営

平成 29 年 2 月 14 日(火) 13:00~16:30 一指摘事項なし

担当者ミーティング

担当者の相談員としてのスキルアップと、適切な事業運営のために、月 2 回実施しました。

6. 子どもへの学習支援

生活困窮世帯の子どもたち（主に中学生）を対象に、貧困の世代間連鎖を断ち切るため、居場所と学習の場を設けました。子どもたちにとって年齢の近い大学生をボランティアスタッフとして、市内3会場で実施しました。冬休みには、「勉強したい」という子どもたちの声から特別講座を設けました。

学習するだけでなく、季節の行事を取り入れ、自分たちの「やりたいこと」を仲間や周りの大人と一緒に実施することを通して、仲間と協力して実施する楽しさを知り、人とのやり取りを学び、生活習慣や社会性を身に付ける機会を設けました。

また、参加する子どもだけでなくその世帯全体を支えるという視点を持ち、行政や学校などその世帯に関わる関係機関と連携しながら支援しました。

- ・ 関係機関との検討会議 4回
- ・ ボランティアスタッフミーティング 3回
- ・ 支援調整会議（新規参加者の受け入れ検討会議） 7回
- ・ ケース会議への出席 14回
- ・ 参加児童への訪問 7回（計18名）

○会場参加状況

会場	対象中学生高校生		学生ボランティア		開催回数
	登録数	延べ人数	登録数	延べ人数	
八日市	14(9) 人	265(278) 人	9(8) 人	152(139) 人	49(51) 回
五個荘	7(13) 人	58(83) 人	4(5) 人	142(120) 人	49(48) 回
御園	6(4) 人	73(15) 人	6(5) 人	140(10) 人	46(5) 回
冬休み 特別講座	12(22) 人	29(37) 人	7(13) 人	22(18) 人	8(6) 回

() 内 27年度

○会場合同行事

内 容	日程	中高生	学生ボランティア
バーベキュー	11/20	5人	7人



冬休み特別講座の様子



たこ焼きパーティーの様子

7. 家計相談支援事業の実施

生活困窮者自立促進支援事業の自立相談支援事業や就労支援等と連携し、生活困窮者が困窮状態から早期に脱却できるよう、‘家計’を入口に支援をしました。

家計相談員が支援をすることで、家計の状況は改善しますが、収入(就労)がなければ課題解決には至らないことも多く、就労支援の充実が望まれます。

支援状況

人数・支援内容		相談経路	自立支援事業		合計
			家計相談支援事業のプランあり	家計相談支援事業のプランなし	
支援者数(実人数)			25名	12名	37名
支援回数			397	54	451
支援内容	家計表の作成・キャッシュフローの作成など		143	1	144
	支援調整会議		42	6	48

家計に関わる相談状況

数	相談経路	関係機関	東近江市社会福祉協議会
		(市社会福祉課・こども相談支援課・ハローワーク・学校等)	
支援者数(実人数)		95名	194名
相談支援件数		533件	

生活保護などの制度につながるまでの方、母子家庭、失業中の求職者、子どもの学費など、経済的な困窮を入口とする相談が関係機関からあります。

また、本会に寄せられる相談には、生活困窮を主訴とする相談も多く、家計相談支援員の視点を活かし、相談に応じています。

家計相談支援事業ケース連絡会

平成28年5月9日、平成28年6月14日、平成28年8月9日、平成28年11月8日

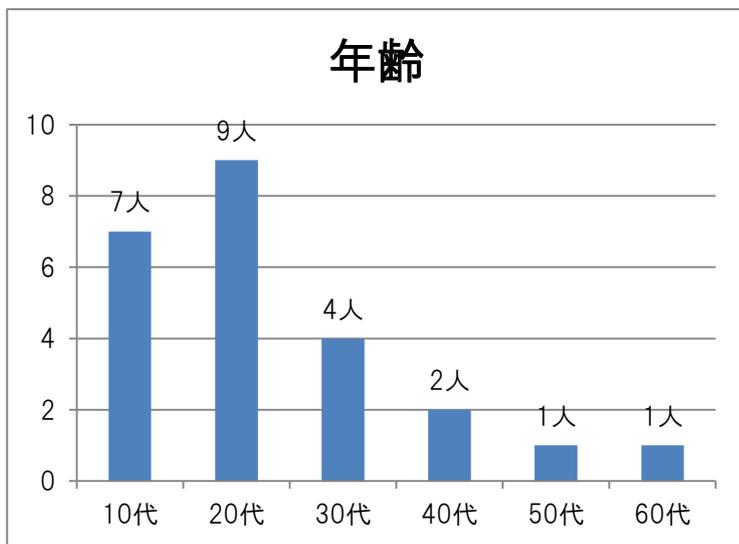
平成28年12月6日、平成29年1月10日、平成29年2月10日、平成29年3月7日

家計相談支援事業検討会

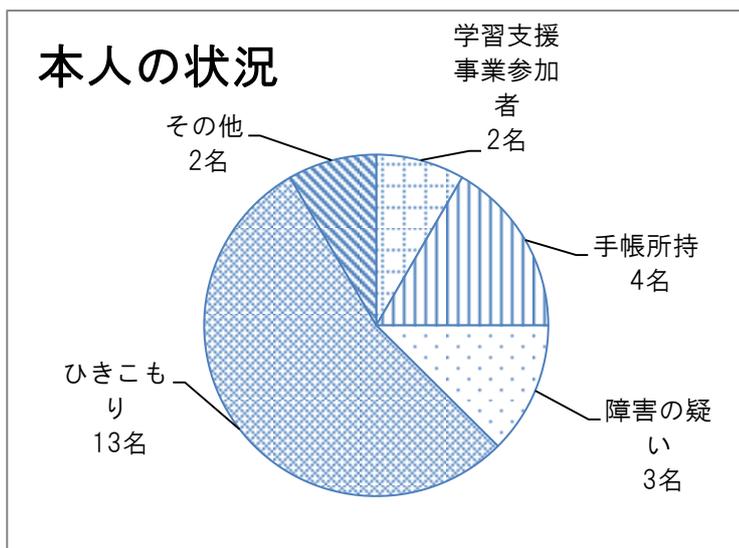
平成28年4月22日、平成28年9月1日、平成29年3月3日

8. S&S (スマイル・スタンド) ～笑顔満タんに～

自己有用感がない、相談できる人がいない、コミュニケーションが苦手・・・など、表出している問題以外の課題を抱えている方が多くおられます。課題解決のために、活動を通して、相談者のもつ力に働きかけをしています。



参加実人数 24名(男17、女7)
 述べ参加人数 358名
 17才～60才が参加されました。



参加後の状況

就労を継続	2名
アルバイト・パートを始めた方	7名
正社員雇用された方	1名
大学へ復学	1名
働き・暮らし応援センターへ つないだ方	3名
生活保護へつないだ方	1名
障害者支援へつないだ方	1名
生活困窮者支援へつないだ方	1名
S&Sの参加継続	7名

活動内容 104回

畑作業	11回	公共施設の障子の張替	2回
D&C(discover & clean)	12回	ダイレクトメールの封入	9回
共同募金の資材わけ	2回	社会福祉大会の資材分け	1回
聖徳まつりの提灯つり	1回	二五八祭のエコステーション	2ブース
市民パレードの旗つくりとパレード参加	3回		
Food Day25の準備・運営	7回		
季節商品の下請け	29回	箱つくり	25回

取り組みを始めて3年目。今年度は、新メンバーがほとんどの中で実施しましたが17名の方が、次のステージに進まれました。

また、活動への理解が地域や企業に広がり、新たな活動の場ができています。

② 暮らしを支える取り組みの推進

困ったことがあっても地域で安心して暮らしていけるよう、一人ひとりの暮らしを支える取り組みをすすめました。

1. 第1層（市域）生活支援コーディネーターの設置（市委託事業）

介護保険制度改正による、新しい地域支援事業の取り組みを進めるにあたり、第1層（市域）生活支援コーディネーターを設置し、地域包括ケアの実現に向けた、支え合いのしくみづくりについて検討をおこないました。



《新しい地域支援事業を考える会の開催》 4回開催

・協議内容

第1層（市域）協議体のイメージの共有および設置に向けた検討

第2層（地区域）協議体、生活支援コーディネーターの取り組み検討

2. 生活支援サポーターの養成

生活する中での困りごとに気づき、支援する人づくりを目的に講座を開催しました。また、既に活動されているグループへの活動支援や、活動の立ち上げ支援を行いました。

・生活支援サポーター養成講座の開催 3会場 延12回 参加者延 297名

市 辺会場 4回 参加者16名 参加者延 67名

永源寺会場 4回 参加者17名 参加者延 62名

蒲 生会場 4回 参加者55名 参加者延168名

・生活支援サポーターの活動支援

地区	活動名	コーディネート内容など
玉緒	生活支援サポーター講座受講者懇談会	懇談会出席、資料準備、相談対応
御園	ちょこっとサポートみその	懇談会出席、相談対応、活動調整、資料準備、視察調整、研修会調整
中野	たすけあい中野	懇談会出席、相談対応、活動調整、資料準備
永源寺	生活支援サポーター絆	懇談会出席、相談対応、活動調整、個別訪問、資料準備、視察調整、研修調整・同行
五個荘	生活支援サポーター講座受講者懇談会	懇談会出席、検討会出席、資料準備、相談対応
湖東	湖東おたすけ隊	懇談会出席、活動同行、資料準備
能登川	ちょこっとサポートのとがわ	懇談会出席、相談対応、活動調整、個別訪問、
蒲生	生活支援サポーターコスモスの会	会議出席、相談対応、活動調整、個別訪問
	長峰西生活サポート隊検討会議	会議出席、相談対応



生活支援サポーター懇談会
五個荘地区



たすけあい中野
通院送迎

3. 住民による見守り訪問活動の支援

見守りが必要な方への訪問による安否確認や、小さな変化に気づく住民の活動を支援し、地域の見守り活動を実施しました。見守りの対象者と出会う機会が増え、小さな変化にも気づきやすくなる環境づくりができました。

- ・給食サービス、友愛訪問・ひとり暮らし高齢者安否訪問

対象者 838名（平成27年度 844名）
 実施回数 148回（平成27年度 262回）
 延べ人数 10,555名（平成27年度 13,451名）

4. 専門職同士の連携強化

専門職同士が互いの専門性を活かし、制度やサービスのはざまにある暮らしの困りごとや地域に必要な社会資源などについて話し合いの場に参画しました。

地区	活動名	コーディネート内容など
永源寺	チーム永源寺	相談対応、会議出席
五個荘	てんびん倶楽部	相談対応、会議出席、会議開催調整
愛東	愛東版三方よし	懇親会出席
八日市 8地区	ミニ三方よし	立上げ検討会議出席、相談対応

5. 地域見守り会議の開催

支援を必要とする人が地域で安心して暮らしていけるよう、民生委員・児童委員など見守り活動を進める住民と専門職などが困りごとの解決に向け一緒に話し合う場を設けました。

また、認知症の方を地域で支える取り組みをすすめました。

地区	活動名	コーディネート内容など
市辺	認知症の人への見守り、声かけ訓練	研修会・訓練開催支援（研修調整、マニュアル作成）
	柏町組会合（見守り会議）	相談対応、専門職コーディネート、会議出席

御園	神田町くらしの応援つながり見守り会議	相談対応、会議出席
	勝見見守り活動検討会	相談対応、会議出席
	御園町見守り会議	相談対応、会議出席
建部	建部あつたかネット訓練	世話人会・勉強会・説明会・訓練参加
永源寺	上二俣町・池之脇町・松原住宅見守り会議	相談対応、会議出席
五個荘	認知症徘徊者早期発見・保護訓練	相談対応、会議出席、訓練参加
能登川	認知症徘徊者早期発見声かけ訓練見守りネットワーク会議	説明会・会議出席

6. 善意による寄付や募金の有効活用（善意銀行、赤い羽根共同募金）

寄付物品などを必要とされている方にお渡しすることで、生活困窮者支援としての役割も担っています。ただ、払い出し先が限られてきているため、今後、幅広い配分先や配分方法を検討していきます。

○歳末たすけあい募金運動による激励訪問を民生委員・児童委員を通じて行いました。

- ・住み慣れた地域であたたかいお正月が迎えていただけるよう助成を行いました。今後は、助成の周知方法を検討し、より多くの支援を必要とする方に助成を広めていきます。
221 世帯 2,415,000 円

○善意銀行に寄付された金品を市民の福祉向上のために活用しました。

- ・災害見舞金事業の実施(善意銀行) 3 件(火災) 30,000 円
- ・緊急用食料品給付事業 37 世帯 54 袋

<預託>

- ・金銭預託

	平成 27 年度		平成 28 年度	
一般寄付金	101 件	1,731,434 円	102 件	1,007,774 円
指定寄付金	28 件	1,097,600 円	31 件	1,110,154 円
自販機設置手数料収入	25 件	224,824 円	24 件	240,637 円

- ・物品預託 お米、食料品、衣類、タオル、リハビリパンツ、野菜等

滋賀
第一交通株
車いすの寄付



箕作小学校
お米の寄付→



- ・リサイクル預託

使用済み切手	85 件	使用済みテレカ	11 件
アルミ缶	39 件	牛乳パック	8 件
書き損じハガキ	3 件	ペットボトルキャップ	81 件
ベルマーク	37 件		

〈預託金品等の効果的な払い出し〉

- | | | |
|-------|-------|---------------------------------------|
| ・金銭払出 | 27 件 | 925,848 円 |
| | 主な払出先 | 地区社協(13 件)、福祉電話(11 件)
指定助成金支出(3 件) |
| ・物品払出 | 主な払出先 | 生活困窮世帯、学童保育所、介護事業所
介護サービス利用者 |

7. 社会福祉調査の実施

住基情報だけでは把握できない、支援を必要とする方々の実態把握を目的に、民生委員・児童委員と協働して実施しました。また、個別情報を台帳化したシステムを活かし、研究機関との協働により世帯票の整備を行いました。

住民が主役の活動のサポート

③ 小地域福祉活動の支援

誰もが安心して暮らしていくために住民自らに取り組む見守り、支え合い活動を支援しました。

1. 小地域福祉活動プログラムの提示

職員が自治会や福祉委員会へ出向き、地域性や住民性、現状や課題から、それぞれの地域の状況に応じた活動プログラムを提示し、住民に身近なエリアでの福祉活動を支援しました。

- | | | | |
|------------|------|---------|-------|
| ・サロンへの活動支援 | 648回 | (平成27年度 | 601回) |
| ・自治会活動支援 | 361回 | (平成27年度 | 237回) |

○サロンへの活動支援（相談対応・打合せ） ○自治会活動支援（相談対応・活動調整など）

地区	件数	のべ回数
平田	5	7
市辺	14	20
玉緒	18	24
御園	5	8
建部	10	12
中野	6	14
八日市	15	23
南部	13	18
永源寺	18	25
五個荘	66	100
愛東	10	10
湖東	39	45
能登川	191	235
蒲生	100	107
合計	510	648

地区	件数	のべ回数
平田	2	2
市辺	7	22
玉緒	3	3
御園	20	32
建部	2	2
中野	2	2
八日市	1	3
南部	0	0
永源寺	6	24
五個荘	86	118
愛東	10	14
湖東	10	14
能登川	84	101
蒲生	22	24
合計	255	361

2. サロン活動への助成支援(財源 市補助金・社協会費)

サロンの立ち上げや運営に関わる方の相談に応じ、サロン活動の支援を行うとともに、サロン助成要綱を統一化して助成を行いました。

平成27年度	箇所数	回数	助成額
あったかサロンづくり事業補助	117ヶ所	1,307回	7,722,214円
ふれあいいきいきサロン助成	110ヶ所	820回	5,271,000円
計	227ヶ所	2,127回	12,993,214円

平成28年度	箇所数	回数	助成額
サロン活動助成金	230ヶ所	2,065回	13,421,533円

※平成28年度サロン助成箇所増減数 9ヶ所増 6ヶ所減

【評価と課題】

地域福祉課と総務課担当が連携し、平成28年度は新たに9ヶ所のサロンが立ち上がりました。地域にあるつどいの場がすべてを把握できていないこと、特につどいの場がない地域の場合、つどいの場が必要とされているのか等、地域の状況が把握できていないことが課題です。



玉緒地区
瓜生津町ふれあいサロン



建部地区
下野町サロン

3. 子どもの遊び場遊具への助成(財源 共同募金)

子どもたちが安心して安全に遊べるよう遊具の新設・修繕に助成を行いました。

	平成 27 年度		平成 28 年度	
	新設	0 件	0 円	2 件
補修	8 件	347,600 円	11 件	432,400 円



【評価】

平成 28 年度は申請自治会数も若干増え、いただいた募金を東近江の町をよくするために活用することができました。

4. 飛び出し人形設置の支援(財源 共同募金)

交通事故から子どもの命を守るための注意喚起として、飛び出し人形の設置を支援しました。

平成 27 年度		平成 28 年度	
67 自治会	67 体	77 自治会	77 体



【評価と課題】

平成 28 年度の事業は平成 27 年度にご協力いただいた「子どもを事故から守る募金」を財源に実施し、市内の交通安全啓発に貢献することができました。また、交差点等の危険箇所も増えており、自治会によっては複数体必要な場合もあり、今後検討する必要があると考えます。

④ ボランティア活動の支援

住民が気軽にボランティア活動へ参加できる取り組みをすすめるとともにその活動を支援しました。

1. ボランティアセンターのあり方を検討

東近江市で求められる「ボランティアセンター」機能の充実と強化を図るため、ボランティアセンターのあり方について検討を行いました。

また、身近な地域で住民が困りごとを聞き、みんなが活躍できる拠点として、モデル地区を指定し「地区ボランティアセンター」の設置に向けて検討を行いました。

- ・ ボランティアセンターあり方検討会 5回
- ・ 中野地区ボランティアセンターを考える会 1回
- ・ 中野地区ボランティアセンター視察研修（西宮市） 1回



ボランティアセンターあり方検討会

2. ボランティア活動の支援

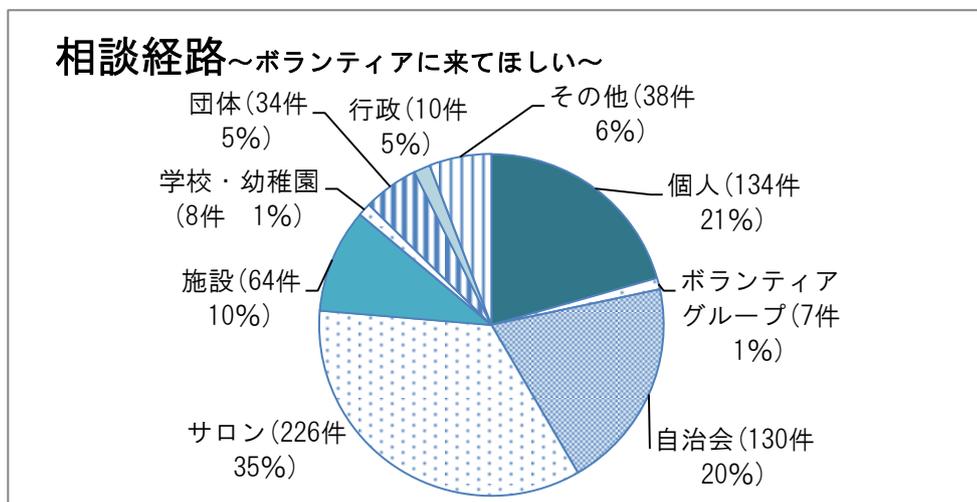
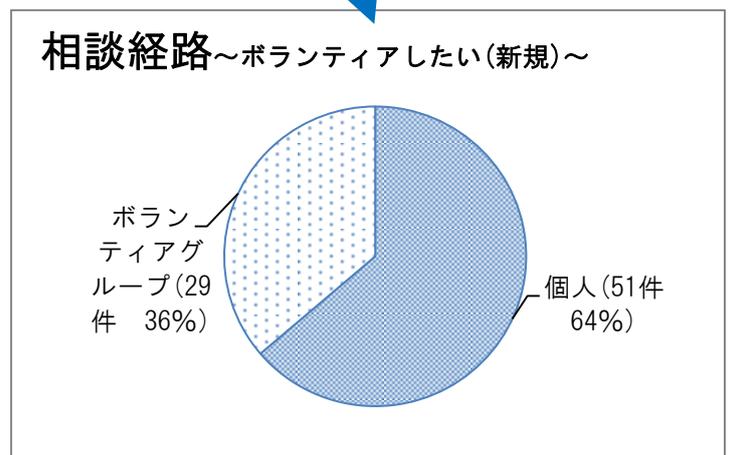
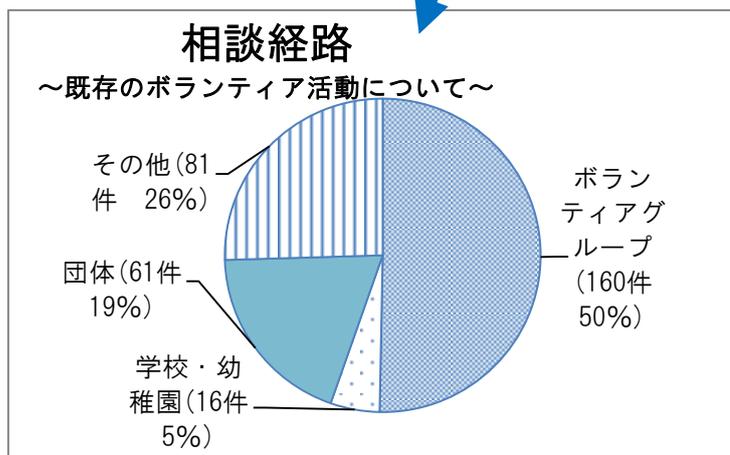
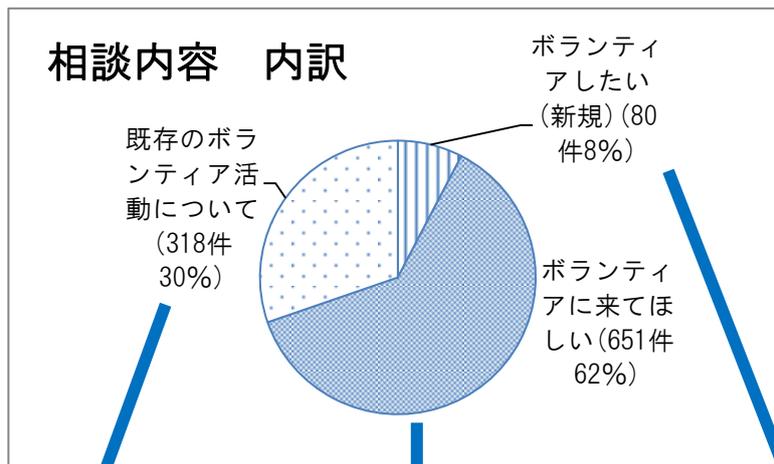
住民のボランティア活動へのきっかけやづくりや、活動中のボランティア活動を支援しました。また、ボランティアをしたい人と、その力を必要とされている人をつなぎ、活動の調整を行いました。

区 分	登録 グループ数	登録人数	登録外把 握グループ数	登録外 把握人数
個人ボランティア		40 人		3 人
ボランティアグループ	89 グループ	1,214 人	21 グループ	150 人
合計	89 グループ	1,254 人	21 グループ	153 人

- ・ ボランティア保険の加入
活動保険 238 件 3,273 名
(内天災タイプ 31 件 367 名)
- 行商用保険 37 件 10,022 名
- ・ ボランティア 相談・問合せ 1,049 件 (平成 27 年度 1,185 件)

○相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	135	150	81	64	49	91	62	70	73	67	76	131	1,049



3. ボランティアグループへの活動助成（財源 共同募金）

ボランティア活動がより活発に展開されるよう助成事業を行いました。助成を行うことで、ボランティアグループの活動の充実を図ることができました。

- ・ボランティアグループ助成 37 グループ 707,422 円

4. 災害ボランティア活動の推進と支援体制づくり

本会各課職員で「災害対策プロジェクト会議」をつくり、災害が発生した際の市社協としての対応、災害ボランティアセンターの設置・運営について検討を重ねました。

東近江市総合防災訓練では、参加機関担当者会議に参画し、災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施しました。特に今年度は五個荘まちづくり協議会を通じて、五個荘中学校の生徒の協力を得て、団体ボランティアの受付、マッチング訓練を行いました。

《災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施》

- ・参加者 108名
民生委員・児童委員、まちづくり協議会、五個荘中学校生徒、ボランティア、探検の殿堂無線倶楽部、福祉施設、パブリックアクセス推進協議会 など
- ・参加職員 37名
- ・訓練内容 ボランティアの受付・マッチング・オリエンテーション訓練
団体ボランティアの受付・マッチング訓練(五個荘中学生団体受付)
ニーズ調査訪問(民生委員・児童委員と高齢者宅を訪問)
ニーズ受付訓練(民生委員・児童委員、福祉施設、避難所等の相談)
災害ボランティア活動の啓発(パネル展示・広報などの掲示)



ボランティア受付



ニーズ受付



中学生の配食ボランティア

5. 被災地支援活動

4月14日に発生した「熊本地震」の被災地域へ職員を1人派遣し、現地社協の支援、災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。

- ・派遣先 熊本県西原村
- ・派遣期間 平成28年5月21日～26日



⑤ 当事者活動の支援

同じ関心を持っている人、共通した課題を抱えている人など当事者同士が気軽に集い、仲間づくり、居場所づくりを支援しました。

1. 当事者が互いにつながれる場づくりの支援

・八日市スプリングホリデー支援 全4日

2. シニア世代の「仲間づくり講座」の開催

シニア世代の方々へ仲間づくりのきっかけとなる場を提供し、地域の活動等に関心を持てる機会をつくりました。

全5回 参加者20名 延べ86名 (H27年度 参加者18名 延83名)



仲間づくり講座の様子



3. 障がい児サマーホリデーの実施（市委託事業）

保護者、ボランティア、行政と協働して、夏休み期間中、障がいを持つ子どもたちが集い、遊びを通して住民とふれあえる場を提供しました。

6会場 各17日（延実施日数 102日）

参加登録児童	104名	（平成27年度	113名）
参加者延	825名	（平成27年度	973名）
ボランティア延	1,194名	（平成27年度	1,630名）
サマーの会打合せ会議			5回
指導員リーダー打合せ会議			7回
指導員研修会			2回
指導員・サマーの会合同会議			1回



永源寺会場
おやつ作り



大きな作品展示



指導員リーダーふりかえり会

4. おもちゃ図書館の開催

子育て中の親子がおもちゃ遊びを通じて気軽に集い、子ども同士の交流と情報交換を通じたつながりづくりの場の提供と子育て支援を行いました。

	開催回数・件数	参加者延人数
おもちゃ図書館	66回 (67回)	843名 (1,216名)
移動おもちゃ図書館	8回 (16回)	258名 (408名)
おもちゃの貸出	202件 (217件)	

() 内 27 年度

5. 児童センターの運営（市委託事業）

子どもたちに遊び場を提供し、遊びの指導を行い、仲間づくりや健やかに育ちあう居場所づくりを行いました。

		開催回数・件数	参加者延人数
遊びを通じた日常的なかかわりの中での児童や保護者からの相談		87件 (79件)	
自由来館（遊びの提供、遊びの指導）			12,439名 (10,001名)
親子サロン	まめっこサロン①②	32回 (15回)	1,628名 (831名)
	ぽかぽかサロン①②	32回 (30回)	1,677名 (1,704名)
夏休みクラブ活動	おりがみ教室	2回 (2回)	146名 (152名)
	手作り教室	1回 (1回)	13名 (27名)
	サイエンスクラブ	2回 (2回)	62名 (98名)
サイエンス★クラブ		10回 (10回)	150名 (103名)
児童センターだより発行		2回 (2回)	

() 内 27 年度

6. 母子福祉センターの運営（市委託事業）

ひとり親家庭、寡婦の方の自立と生活の安定をはかるため、様々な講座の開催や交流、相談等を行いました。

- 母子・父子および寡婦の家庭生活の自立と生活の安定を図る各種事業
- 母子福祉推進委員会、母子福祉のぞみ会の会議参加、事業協力

・教室、イベント等の開催

	開催回数・件数		参加者延人数	
親子バス旅行	1回	(1回)	41名	(44名)
手芸教室	5回	(4回)	44名	(41名)
親子交流会	3回(2回)	親子でヨガ	10名	計45名 (40名)
		親子で陶芸	19名	
		親子でボウリング	16名	
おしゃべり会	1回	(1回)	6名	(7名)
サークル活動の場所提供 (生け花サークル)	12回	(12回)	120名	(120名)

()内27年度

7. 老人福祉センターの運営(市委託事業)

高齢者の健康増進や教養の向上、生きがいづくりの場を提供するため、講座の開催や交流等を行い、相談等にも応じました。

	開催回数		参加者延人数	
自由来館(囲碁)			374名	(367名)
サークル活動の場所提供	70回	(61回)	1,247名	(1,395名)
パソコン教室	6回	(9回)	29名	(81名)
陶芸教室	3回	(3回)	20名	(32名)
寄せ植え教室	2回	(2回)	37名	(42名)
手芸教室	1回		19名	
ヨガ教室	1回		7名	

()内27年度



児童センター
おもちゃ図書館



母子父子福祉センター
バス旅行



老人福祉センター
自由来館(囲碁)

つながりづくりと連携・協働の推進

⑥ 地域の福祉を支える人や団体の連携・協働

地区社会福祉協議会（以下地区社協という）をはじめとする住民組織の活動を支援しました。

1. 地区社協との連携と活動支援

各地区の地域性に合わせた活動となるよう地区社協の活動を支援しました。

- ・ 14地区社協連絡会 1回 参加者延 24人
- ・ 地区社協への運営費・事務局設置費助成

会費による事務局助成	8地区	1,752,160円
会費による運営助成	14地区	1,818,376円
- ・ 地区社協への事業費助成

赤い羽根共同募金による助成	8地区	645,300円
歳末たすけあい募金による助成	8地区	446,700円
善意銀行による助成	12地区	687,678円



14地区社協連絡会

- ・ 各地区社協との連携

それぞれの地域の状況や目指す方向に沿って、各地区に合わせて連携した地域福祉をすすめました。

地区	内容	コーディネート内容など
平田	見守り支援事業、助成事業、活動支援、敬老会	相談対応、助成申請支援
市辺	見守り支援事業、助成事業、活動支援、役員会	相談対応、会議出席、助成申請支援
玉緒	見守り支援事業、助成事業、活動支援、役員会、歳末たすけあい事業	相談対応、会議出席
御園	理事会、三役事務局会、見守り支援事業、住民福祉活動検討委員会、助成事業、座談会よりあい、みその井戸端会議サロン交流会、活動支援、視察研修、地域での支え合いを広げるつどい	相談対応、助成申請支援、情報提供、資料提供、調整、打合せ、検討委員会参加
建部	見守り支援事業、助成事業、活動支援、あつたかネット世話人会、あつたかネット訓練、東日本大震災義援金	相談対応、会議出席、助成申請支援、訓練実施支援

中野	見守り支援事業、助成事業、広報「かけはし」発行、活動支援	相談対応、研修調整
八日市	四役会、常任理事会、広報委員会、活動支援、一人暮らし老人交流のつどい、広報委員会、見守り支援事業、助成事業、活動支援、研修	相談対応、会議出席、打合せ、研修調整
南部	見守り支援事業、助成事業、活動支援、給食ボランティア総会、常任理事会、子どもひろば、障がい者への理解を深めるつどい、視察研修	相談対応、会議・つどい出席、研修調整
永源寺	助成事業、主催事業、協賛事業支援、命のバトン、三役会、理事会、常任理事会、広報編集会議、えんがわ喫茶、親子手づくり教室、見守り活動推進会議、歳末おせち料理お届け・友愛訪問事業	相談対応、会議出席、助成申請支援、研修調整、視察受け入れ、研修調整
五個荘	見守り支援事業、助成事業、活動支援、自治会福祉推進連絡会、役員会、事業部会、総務部会、広報部会、福祉委員研修会、てんびんの里わくわく広場、福祉人権のつどい、交流研修、サロン交流会	会議出席、事務局打合せ、会議準備、研修調整
愛東	助成事業、活動支援、広報発行支援、理事会、三役、総会、会費、あいとう夏まつり・秋まつりバザー出店、しあわせホームボランティア交流会	相談対応、会議出席、広報情報提供、研修調整、事務協力
湖東	見守り支援事業、助成事業、活動支援、広報発行支援、理事会、高齢者市内見学、役員研修会、湖東ふるさとまつり、歳末おせち配食事業、季節の味お届けサービス	相談対応、会議出席、広報情報提供、事業打合せ、研修資料提供、学校協力依頼、事務協力
能登川	助成事業、活動支援、理事会、評議員会、総務会計部会、研修部会、広報部会、事業企画部会、役員研修、10周年記念事業、レクリエーション講座、料理講座、ふれあいフェア、子ども芸術展での啓発活動、歳末おせち料理配食事業	相談対応、会議・部会・事業への出席、広報情報提供、研修調整
蒲生	助成事業、活動支援、本部役員会、役員会、広報、総会、歳末お楽しみ会、福祉と健康のつどい、福祉のまちづくり講座、身障更生会との交流、中学生懇談会、地区住民福祉計画推進・策定、役員研修、抛り所創造事業	相談対応、会議出席、広報情報提供、研修調整、事業協力

2. 民生委員児童委員協議会との連携

住民の最も身近な支援者である民生委員・児童委員と連携し、見守り、助け合いのあるまちづくりをすすめました。

地区	内容	コーディネート内容など
平田	定例会、研修会、特別会費協力依頼、歳末激励金、にこにこ訪問支援、父子給食	定例会出席、相談対応、研修先調整
市辺	定例会、意見交換会、特別会費協力依頼、歳末激励金、小学校懇談	定例会出席、相談対応
玉緒	定例会、研修会、にこにこ訪問支援、特別会費協力依頼、歳末激励金	定例会出席、相談対応、研修先調整
御園	定例会、特別会費協力依頼、歳末激励金、にこにこ訪問、みそのちびっこ協力	定例会出席、相談対応
建部	定例会、特別会費協力依頼、研修会、共同募金、募金激励金、広報紙	定例会出席、相談対応、研修先調整、広報校正

中野	定例会、研修会、特別会費協力依頼、歳末激励金、ママさんおしゃべり会、障がい児の保護者との懇談会、にこにこ訪問、広報誌	定例会出席、相談対応
八日市	定例会、にこにこ訪問支援、特別会費協力依頼、研修、歳末激励金	定例会出席、相談対応
南部	定例会、助成金、喫茶ボランティア支援、特別会費協力依頼、研修会、歳末激励金	定例会出席、相談対応、研修先調整
永源寺	定例会、研修会、特別会費協力依頼、共同募金、歳末激励金、幼稚園・小学校訪問、広報紙	定例会出席、相談対応、研修先調整、広報校正
五個荘	定例会、一人暮らし高齢者への運動会案内、特別会費協力依頼、歳末激励金	定例会出席、相談対応
愛東	定例会、研修会、特別会費協力依頼、学校訪問、歳末激励金	定例会出席、相談対応、研修先調整
湖東	三役会、定例会、研修会、特別会費協力依頼、歳末激励金	定例会出席、相談対応、研修先調整
能登川	定例会、代議員会、研修会、特別会費協力依頼、見守り支援事業、共同募金、歳末激励金	定例会出席、相談対応、研修先調整
蒲生	定例会、特別会費協力依頼、研修、共同募金、歳末激励金、ほっとたいむ、視察受け入れ、ともしび作成	定例会出席、相談対応、研修先調整、資料作成協力
市	事務局担当（総会、理事会、三役会、部会・委員会、各種研修、広報発行、地区定例会資料等）	会議運営、研修調整他事務局業務

3. まちづくり協議会・NPO法人・市民活動団体等との連携

まちづくり協議会・市内のNPO法人・市民活動団体と情報を共有し、連携を図りました。

地区	内容	コーディネート内容など
平田	まちづくり協議会	地区住民福祉活動計画との調整・打合せ
建部	建部地区まちづくり協議会運営委員会、交流会	会議出席
八日市	八日市つながりプロジェクトへの支援	相談対応、助成金説明
永源寺	みんなのふるさと祭り&特産品フェア	会議出席、会議準備、事業参加
五個荘	五個荘地区総合防災訓練	相談対応、訓練参加
	あんしんサポート委員会	相談対応、委員会出席、徘徊保護訓練調整・参加
愛東	福祉プロジェクト支援	会議出席、事業実施
湖東	まちづくり計画策定委員会	会議出席
能登川	まちづくり計画策定委員会	相談対応、会議出席
	老人クラブ連合会能登川ブロック	相談対応、打合せ
	能登川赤十字奉仕団	相談対応、準備、事業参加
蒲生	あかね通学合宿	ゲストティーチャーと協力、打合せ、準備
	ボランティア連絡協議会	相談対応、会議出席

- 市民協働推進委員会への委員参画
- 市民活動推進交流会実行委員会（わくわくこらぼ村）委員参画、事業参加
- 市民協働ラウンドテーブル運営委員会への参画、事業実施連携協力

4. 異業種（福祉以外の団体・企業・商店）との情報共有

それぞれの取り組みや、互いの強み弱みを知る機会を持ち、互いの強みが活き、協働した福祉のまちづくりをすすめました。

5. 地域の福祉を支える人や団体の情報交換の場づくり

地区の中で自治会長、民生委員児童委員、福祉委員など地域の福祉を支える人や住民同士が情報交換し、つながり合える機会をつくりました。

地区	内容	コーディネート内容など
市辺	福祉協力員会議	会議出席、会議資料作成、
玉緒	福祉委員会	会議出席、打合せ、相談対応
永源寺	福祉推進員・民生委員児童委員交流会	資料準備、調整
五個荘	自治会福祉推進連絡会、共助の基盤整備事業「つながりづくり講演会」、福祉委員研修会	会議出席、会議準備、打合せ、講師の調整
愛東	福祉委員会交流会、小倉町福祉委員会	会議出席、会議準備、打合せ
能登川	学区別福祉懇談会、桜ヶ丘福祉の会、伊庭町福祉推進会	相談対応、会議出席、視察研修調整・同行
蒲生	福祉のまちづくり講座（2回）	講座の共催、打合せ、資料作成、講師との調整・打合せ

6. 地域住民や市内の地域福祉活動を担う方々が集い、共に学び高め合う場づくり

全ての市民が福祉に対する理解と関心を深め、地域の支え合いを大切にし、住み慣れた地域において安心して生活が送れるよう、また一人ひとりが輝き、自らの能力を発揮し、健康で生きがいをもって豊かな社会生活を営むことができるよう「共に生き安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指して見守りフォーラムと同日で開催しました。

◎ひがしおうみし見守りフォーラム&東近江市社会福祉大会の開催

- 日 時：平成 28 年 10 月 15 日（土）
 場 所：東近江市能登川コミュニティセンター
 参加者：約 400 名
 ○被表彰者選考委員会 9 月 2 日（金）
 ○平成 28 年度東近江市社会福祉大会

〈式典〉

- ・東近江市きらめき大賞【市委託】 7 件（5 名・2 団体）
- ・東近江市共同募金委員会会長感謝 68 件（2 名・66 団体）

- ・東近江市社協会長表彰
- ・東近江市社協会長感謝

70件(64名・6団体)

22件(7名・15団体)



社会福祉大会の様子

〈募金百貨店プロジェクト合同調印式〉

募金百貨店プロジェクト調印企業
 フジ・モータークリニック
 ファームキッチン野菜花
 一般財団法人愛の田園振興公社



合同調印式の様子

○ひがしおうみし見守りフォーラム

市内各地域の実践を発信し、“東近江市らしい”見守り活動について考える機会となりました。また、気になる人や暮らしの困りごとに気づいた人が「ほっとけへん！何とかしたい！」と一歩踏み出せる“おせっかい”な地域づくりに向けて、「出来ることからやってみよう」という機運をつくることを目的に開催しました。

〈プログラム〉

- ・基調講演「気かけ合える地域づくり～暮らしの中にあつた助け合い～」
- ・分科会①「見守りにつながる地域のつどいの場を考える」
- ・分科会②「“なんか気になる”が言える助け合いのまちづくり」
- ・分科会③「緊急時、命と暮らしを守る多職種による見守り」
- ・分科会④「地域で見守り子どもと子育て」
- ・分科会⑤「認知症を理解し、共に暮らす地域をつくる」
- ・見守りマルシェ
- ・まとめのディスカッション



基調講演



見守りマルシェ



分科会③

○見守りフォーラム登壇者 交流会

フォーラム参加者の声や、市内に見守り活動が広がっていく機会となったことをふり返り、フォーラムの継続と東近江市で見守りを広げていくために必要なことを考える機会としました。また、登壇者同士のつながりをこれっきりにはせず、お互いの活動やフォーラムでの出来事を話せる場に、これからも登壇者同士がつながり、新たな活動が展開していくきっかけとなることを目指して開催しました。

日 時：平成 28 年 12 月 10 日（土）18：00～21：00

場 所：子民家 etokoro

参加者：（登壇者）14 名、（市社協）11 名

<内容>

- ・懇談「フォーラムをふり返って」
- ・情報交換会



見守りフォーラム登壇者交流会の様子

7. 各種団体への助成事業

共同募金が適切に助成事業に活用できるよう、審査委員による助成事業内容の審査を行いました。また、助成を受けた団体からのメッセージを寄付者にも発信しました。

<共同募金助成事業審査委員会>

	期日	審査・検討内容
第1回	平成 28 年 7 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ助成事業(赤い羽根共同募金) ・地区社協地域交流事業助成(赤い羽根共同募金) ・福祉団体助成事業(赤い羽根共同募金)
第2回	平成 28 年 11 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえあい滋賀助成事業 ・地区社協地域歳末たすけあい事業(歳末募金) ・歳末たすけあい募金助成事業(歳末募金) ・歳末たすけあい激励金について(歳末募金)

⑦ 情報発信と共有でつながりづくり

いろいろな取り組みや人とのつながりの中でアンテナを張り、情報を収集し、集まった情報を発信することで、人と人、人と活動をつなげることに取り組みました。

1. 広報誌『ひがしおうみ社協だより』の発行、ホームページの充実など

地域の人や活動等、身近な記事を掲載した広報誌の発行を行いました。また、タイムリーな情報を常に発信できるホームページの作成に取り組みました。

広報誌名	発行回数／部数／配布方法		
「ひがしおうみ社協だより」	6 回	38,300 部	新聞折込
「能登川地区福祉だより」	6 回	8,200 部	各戸配布（能登川地区）
「せせらぎ通信」	1 回	4,950 部	新聞折込（蒲生地区）

地域愛・学び合いですすめるまちづくり

⑧ “わが^{まち}地域”への想いが実感できる福祉教育の推進

人や自然とのつながりの中で生きていることや、命の大切さに気づく機会を地域の方々と一緒につくり、地域愛や思いやりの心が育つ地域づくりをすすめました。

1. 住民による懇談会の開催

自治会や地区など自分の暮らす地域をよくしていくため、懇談会やつどい、福祉講座を開催しました。

地区	内容	対象	回数	人数
五個荘	五個荘地区自治会福祉推進連絡会	自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、五個荘地区社協理事	1	91
湖東	湖東地区福祉懇談会	自治会長、民生委員・児童委員、福祉推進委員、湖東地区社協理事	1	102
能登川	能登川地区学区別福祉懇談会	自治会長、民生委員・児童委員、のたがわ福祉の会理事、評議員	3	146
東近江市	障がい(児)について理解を深める学習会	一般市民、サマーホリデー関係者、民生委員・児童委員	1	54



湖東地区福祉懇談会



建部地区住民懇談会

○共助の基盤づくり整備づくり事業

年齢や性別、生活環境などに関わらず、身近な地域において、誰もが安心して生活ができるよう、地域住民の支え合いがひろがるよう取り組みをすすめました。

地区	事業名・内容	対 象	
平田	「子どもを地域でそだてる」地域づくりに向けた先進地研修 視察先：三重県津市「泉っ子」 子どもリーダーについて	平田ふくしのまちプラン実行委員・ 「こどもを地域で育てる」地域づくりに興味・関心のある方	12名
市辺	認知症高齢者を地域で見守る取り組み 1.認知症研修：認知症とは 認知症予防について 認知症高齢者を地域で見守っていくには 講師：こぼしの家 施設長 小泉百合子氏	市辺地区の住民	50名
	2.認知症による徘徊者の早期発見・声かけ訓練 ①事前研修「認知症になっても安心なまちづくり」 講師：東近江市社会福祉協議会 在宅福祉課佐藤眞澄 ②訓練：東市辺自治会をモデルに実施 認知症の方への声かけ訓練を行う	東市辺町民 関心のある他町の自治会長 市辺地区住民福祉活動計画推進 会議メンバー	40名 47名
玉緒	「玉緒地区住民福祉活動計画推進会議」 計画の推進会議のなかで、玉緒地区の福祉をすすめていくために何が必要なのか、玉緒地区の現状や課題を検討。 ・住民懇談会の実施、住民アンケートの実施	玉緒地区住民福祉推進会議メンバー (自治連会長、まち協会長、副会長、 コミセン館長、民生委員・児童委員、 教育協議会会長、老ク連合会会長、 福祉委員会会長、更生保護女性会分 区長、赤十字奉仕団分団長、ボラン ティアグループ、地区社協 など) 玉緒地区住民 など	26名
御園	「地域での支え合いを広げるつどい」 講演：“見守り活動”から“見守られ活動”へ ～みんなでつくる「地域支え・合い」 のすすめ～ 講師：ご近所福祉クリエイター 酒井 保氏 グループ懇談会	サロン活動スタッフ、給食ボラン ティア、民生委員・児童委員、各種団 体、医療福祉専門職、ちょこっとサ ポートみそのメンバー、推進会議メ ンバー、地区社協役員、その他御園 地区住民	77名
建部	「たてべの福祉を語る場」 建部地区の住民が集う場を設け、建部の福祉 や地域活動などについて、情報交換をしながら、見守り活動の充実に取り組んだ	地区社協会長、民生委員・児童委員、 まち協、サロンスタッフ、 各種団体メンバー、地域住民など	15名
中野	「中野地区の助け合いの仕組みを考える視察 研修」 テーマ：地区ボランティアセンターの取組 みについて	中野地区のボランティアセンターを 考える会メンバー たすけあい中野、民生委員・児童委 員、なかのよいまち推進会議メンバ	14人

	講師：西宮北夙川・苦楽園地区ボランティア コーディネーター 西宮市社会福祉協議会 職員	一、中野ヴァレージハウス理事、市ボラ センあり方検討会メンバーなど	
八日市	「声かけあって、みんなで地域づくり ～災害に備えて日ごろからできること～」 講師：日野ボランティア・ネットワーク 山下弘彦氏 グループ懇談	地区社協、民生委員・児童委員、サ ロンスタッフ、給食ボランティア、 自治会長、各種団体、地区住民福祉 活動計画推進会議メンバー、など	64 人
南部	「みんなで“きづく”まちづくり講座」 講演：「一人ひとりの“できる”で支え合う地域 づくり」 講師：ご近所福祉クリエイター 酒井保氏 グループワーク：「住民暦書」の作成	地区社協、まち協、サロンスタッフ、 老人クラブ、住民福祉活動計画推進 会議メンバー、など	40 名
永源寺	交流会「輪つなぎ」 永源寺地区で活動する多種多様なメンバーが 集い、「一人ひとりの暮らしを支える」を切り 口に、福祉のまちづくりを考えた	民生委員・児童委員、永源寺地区福 祉推進員、生活支援サポーター絆、 永源寺中学校生徒、医療福祉の専門 職、市福祉関係職員、など	54 名
五個荘	つながりづくり講演会 講演：手を取り合って ～災害から日頃の備えを考える～ 講師：日野ボランティア・ネットワーク 山下弘彦氏 グループ懇談	自治会長、福祉委員、民生委員・児 童委員、生活支援サポーター、地区 社協理事、まち協、あしあとの会、 てんびん倶楽部、地区住民福祉活動 推進会議メンバー など	69 名
愛東	愛東地区福祉委員会交流会 愛東地区の現状や今後について話し合い、自分 の町の事を考えようと思う人が、具体的な活動 につなげるためのきっかけづくりをした。	福祉委員会、自治会長、民生委員・ 児童委員	91 名
湖東	アンケート調査の実施 湖東地区の住民が、現在地区の事についてど のように考えているのか、また現状などを、ア ンケートを基に調査。 アンケート調査の結果を今後、福祉のまちづく りに活かしていく。 ■中学生アンケート ■地区住民アンケート	湖東中学校 3 年生 自治会長、福祉推進委員、民生委員・ 児童委員	101 名 126 名
能登川	ホンモノの支え合いの地域づくりを考えるつ どい 講演：一人ひとりの“できる”で ホンモノの支え合い 講師：ご近所福祉クリエイター 酒井保氏 グループ懇談	のとがわ福祉の会、民生委員・児童 委員、まち協、ちょこっとサポート のとがわ、医療、福祉などの専門職、 地区住民福祉活動計画ワーキングメ ンバーなど	56 名

蒲生	<p>蒲生地区拠り所創造事業推進に向けた先進地研修</p> <p>研修先：米原市河内福祉委員会 (米原市お茶の間創造事業実施団体) 河内福祉委員会の取り組みについて など</p>	生活支援活動に取り組む方、関心のある方、拠り所創造事業モデル自治会・団体、蒲生あかね福祉の会 など	33名
14地区	<p>地域分析(14地区)</p> <p>地域の資源と福祉ニーズを把握し、地域分析を14地区において実施。</p> <p>①地域における社会資源の把握 ②地域住民との懇談会等を開催し、地域住民の思いや願いなどを聞き、地域の現状や課題、ニーズを把握 それぞれの地域が持つ特性、強み、弱みを明らかにし、各地区の地域福祉を推進していく</p>		
市域	<p>ボランティアセンターのあり方検討会</p> <p>年5回開催 7/11、8/16、9/8、10/28、12/26 社協と住民が共に運営できるボランティアセンターを目指し、検討会を実施 また、地区単位の拠点(地区ボランティアセンター)をつくり、身近なところで相談ができる場をつくることを目指す 中野地区をモデルに検討をはじめた アドバイザー：京都光華女子大学 南 多恵子氏</p>	ボランティア、NPO、労働福祉協議会、学校支援コーディネーター、県社協職員	10名
市域	<p>ひがしおうみし見守りフォーラム</p> <p>気になる人や暮らしの困りごとに気づいた人が「ほっとけへん！何とかしたい！」と一歩踏み出せる“おせっかい”な地域づくりを進めるきっかけとなるよう開催 基調講演：気にかける地域づくり ～暮らしの中にあつた助け合い～ 講師：NPO 法人 全国コミュニティライフサポートセンター 池田 昌弘氏 分科会：①見守りにつながる地域のつどいの場を考える ②“なんか気になる”がいえる助け合いにまちづくり ③緊急時、命と暮らしを守る多職種の見守り</p>	小地域や地区で福祉活動に携わる人、地域で何か取り組んでいきたいと考えている人、医療や福祉の専門職、配達業やライフラインに関わる民間業者、その他関心がある方 など	400人

	<p>④地域で見守る子どもと子育て</p> <p>⑤認知症を理解し、共に暮らす地域をつくる</p> <p>まとめのディスカッション</p> <p>見守りマルシェ</p>		
--	--	--	--

2. “わが^{まち}地域”を感じる福祉教育の推進

子どもたちが、さまざまな体験や地域に目を向けて話し合うことを通して、“わが^{まち}地域”を意識して学習できる福祉教育を地域住民や学校と一緒にすすめました。

福祉教育（市内小中学校への出前講座）

学校 87件（平成27年度 99件）

回数延 127回（平成27年度 138回）

参加者延 4,232名（平成27年度 5,036名）

相談・問い合わせ・コーディネート 235件（平成27年度358件）



八日市北小学校「車椅子体験」



箕作小学校「おりづる交流」



永源寺中学校「認知症学習」

3. 米寿記念写真の贈呈、掲額の実施

長寿を祝い年長者を敬う心を育くむ取組みとして、米寿を迎えられる方々の写真を撮影、掲額し贈呈しました。

撮影・掲額・贈呈 247名（平成27年度 298名）

⑨ 若者が活躍できる機会づくり

若者たちが「地元が好き!」と思えるまち、「このまちで暮らしたい!」と思えるまちづくりに取り組みました。

1. 5年後、20歳の子ども懇談会の開催（中学生懇談会）

子どもたちが地域やまちづくりについて話し合う場づくりとして、中学生懇談会を開催しました。

地区	内容	対象	回数	人数
平田市 市辺	船岡中学校中学生懇談会	生徒会、平田ふくしのまちプラン推進委員会、市辺推進会議	1	27
蒲生	朝桜中学校中学生懇談会	朝桜中学校生徒会、蒲生あかね福祉の会	1	38



船岡中学校



朝桜中学校

2. 若者が話し合う場づくり

若者がまちづくりや地域おこし、また働く場など、自分たちが住み続けることができるまちについて話し合う場をつくりました。

地区	内容	対象	回数	人数
市	あれから5年、20歳をむかえた若者懇談会	「5年後、20歳をむかえる子ども懇談会」（平成23年度実施）参加者	1	5

3. 高校、大学との連携

県内の大学と連携し、若者が地域活性化の取り組みや地域貢献できる機会を設けました。

- ・ワークキャンプ活動支援 1回（2泊3日）
参加者延 13名
- ・高校、大学へのボランティア協力の依頼 3回

⑩ 地域福祉活動計画の推進

「東近江市地域福祉活動計画」が実効あるものとなるよう、住民を主体として計画の進行管理や推進、地区における取り組みへの支援をしました。

1. 第2次東近江市地域福祉活動計画策定

- ・ 策定委員会 6回
策定委員42名(福祉・医療・教育・商工など広くまちづくりに携わる方々)
- ・ 作業委員会 12回

2. 第1次「地区住民福祉活動計画」推進支援

各地区それぞれ計画推進のために設けられる話し合いの場などへの参画を通し、各地区の状況に合わせた取り組みがされるよう支援しました。

地区	活動名	コーディネート内容など
平田	2次プランの策定、アンケート調査の実施、ふくしのまちプラン推進委員会、広報、三役会、実行委員会、中学生懇談会、先進地視察、文化祭、介護の学習会	会議出席、資料準備、相談対応、調整、広報記事作成
市辺	地区住民福祉活動計画推進会議、住民懇談会、中学生懇談会、認知症研修会と声かけ訓練(モデル自治会)	会議出席、資料準備、事前打合せ、開催
玉緒	地区住民福祉活動計画推進会議、住民アンケート、住民懇談会	会議出席、会議調整、資料準備、事前打合せ、
御園	住民福祉推進会議	相談対応、サロン交流会調整
建部	たてへの福祉を語る場、コミセンサロン「ちょっときてcafé」	会議・サロン出席、資料準備、事前打合せ、「かわら版」作成
中野	地区計画の推進について打合せ、なかのよいまち推進会議	会議出席、資料準備、調整、開催
八日市	八日市つながりプロジェクト会議、イザ!フェス!八日市つながり防災ウォークラリー、カフェはちのひ	会議出席、会議調整、相談対応、子どもサマーフェスティバル参加
南部	南部地区住民福祉活動計画ワーキング会議、ほっとまちカフェ	会議出席、資料準備、担当者会議
永源寺	住めば都プラン推進会議	会議出席、資料準備、事前打合せ
五個荘	推進会議、PTAアンケート、住民懇談会、医療福祉専門職・当事者グループへの聞き取り	会議出席、事前打合せ、関係団体調整、資料準備
愛東	福祉プロジェクト、専門職等懇談会、命のバトン推進委員会、命のバトン啓発活動、認知症研修、東近江認知症ケア・ネットワークを考える会発表、	会議出席、準備、連絡調整、事前打合せ
湖東	湖東プラン推進会議、中学校3年生へのアンケート調査、自治会へのアンケート調査	会議調整・出席、事前打合せ、アンケート作成
能登川	地区住民福祉活動計画推進支援	関係団体調整
蒲生	あかね福祉プラン推進支援、2次プランの策定、アンケート調査の実施	会議出席、資料準備、調整



市辺地区
「地区住民福祉活動計画推進会議」



南部地区
「ほっとまちカフェ」

基盤強化

⑪ 幅広く市民が参画できる組織運営・活動展開を図りました

(1) 会務の運営

社会福祉法人として適切で充実した運営をするため次の会務を行いました。
〈正副会長会議の開催(三役会)〉

	期日	審議事項
第1回 三役会	平成28年 5月26日	理事会・評議員会提案事項について 一年間の予定と社協の懸案事項について 組織運営・課題についての協議
第2回 三役会	平成28年 9月21日	理事会・評議員会提案事項について
第3回 三役会	平成29年 1月23日	理事会・評議員会提案事項について
第4回 三役会	平成29年 3月23日	理事会・評議員会提案事項について

〈理事会、評議員会、監事会の開催〉

	期日	審議事項
第1回 理事会	平成28年 5月30日	議事 ・平成27年度事業報告について ・平成27年度一般会計決算について ・評議員の交替に関し理事会の同意を求めることについて
第2回 理事会	平成28年 9月26日	報告事項 ・平成28年度事業実施状況報告(4～8月) 議事 ・平成28年度一般会計補正予算について(第1号) その他 ・東近江市指導監査指摘事項について ・社会福祉制度改革に伴う対応について

第3回 理事会	平成28年12月12日	議事 <ul style="list-style-type: none"> ・定款全部変更について ・定款施行細則全部変更について ・評議員選任・解任委員会運営細則の制定について ・評議員選任・解任委員の選任について その他 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉権利擁護事業について
第4回 理事会	平成29年1月30日	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事業実施状況報告(9～12月) ・給与規程一部改正について ・育児・介護休業及び育児・介護短時間勤務に関する規則の制定について 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度一般会計補正予算について(第2号) ・評議員の委嘱に関し理事の同意を求めることについて
第5回 理事会	平成29年3月16日	議事 <ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長の選任について ・経営する施設の施設長選任について ・評議員候補者の推薦について
第6回 理事会	平成29年3月28日	議事 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度補正予算について(第3号) ・事務局および職員に関する規程の一部改正について ・経理規程の一部改正について ・平成29年度事業計画について ・平成29年度一般会計予算について
第1回 評議員会	平成28年5月30日	議事 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度事業報告について ・平成27年度一般会計決算について ・理事の交替に関し評議員会の議決を求めることについて
第2回 評議員会	平成28年9月26日	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事業実施状況報告(4～8月) 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度一般会計補正予算について(第1号) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・東近江市指導監査指摘事項について ・社会福祉制度改革に伴う対応について
第3回 評議員会	平成28年12月12日	議事 <ul style="list-style-type: none"> ・定款全部変更について その他 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉権利擁護事業について

第4回 評議員会	平成29年1月30日	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度事業実施状況報告(9～12月) 給与規程一部改正について 育児・介護休業及び育児・介護短時間勤務に関する規則の制定について 議事 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度一般会計補正予算について(第2号) 理事の委嘱に関し評議員の議決を求めることについて
第5回 評議員会	平成28年3月28日	議事 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度補正予算について(第3号) 事務局および職員に関する規程の一部改正について 経理規程の一部改正について 平成29年度事業計画について 平成29年度一般会計予算について
第1回 監事会	平成28年5月23日	平成27年度事業・決算監査
第2回 監事会	平成28年8月26日	平成28年4～6月事業・会計監査
第3回 監事会	平成28年12月2日	平成28年7～9月会計監査・現地監査
第4回 監事会	平成29年2月23日	平成28年10～12月会計監査・現地監査
法人指導 監査(市)	平成28年8月26日	平成27年度 法人運営・事業・会計監査(1年度分)

<評議員選任・解任委員会の開催>

	期日・出席者	審議事項
評議員選任・ 解任委員会	平成29年3月22日 選任・解任委員4名	・評議員の選出について



評議員会



現地監査(相談支援課)

(2) 日常業務の円滑な実施のため課長会議ならびに主幹会議を定期開催し、情報共有を図ると共に職員の共通認識を高めました。

課長会議 14回
主幹会議 12回(各課・事務所・事業所へ伝達)

(3) 福祉諸団体の事務局を担当

①東近江市共同募金委員会

- ・募金委員会事務局の運営（理事会3回、評議員会3回、監事会4回）
- ・募金運動の推進（赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金）
- ・テーマ型募金への取り組み
- ・審査委員会の開催
- ・罹災者支援活動

②東近江市民生委員児童委員協議会

- ・協議会事務局の運営
- ・要援護者把握のための社会福祉調査の実施

③東近江介護サービス事業者協議会

- ・協議会事務局の運営

1. 「第三者委員会」の開催

市民や利用者に第三者委員会の一層の周知を行い、苦情解決や虐待防止に努め、事業改善に向け法人として対応を行いました。

- ・第三者委員会の開催

	期日	内容
第1回 第三者委員会	平成28年9月28日	苦情(10件)・事故報告(73件)
第2回 第三者委員会	平成29年3月23日	苦情(13件)・事故報告(98件)

2. 社会福祉制度改正に伴う法人機能の強化

(1) 経営組織のガバナンスの強化

理事・評議員・監事の位置づけと権限・責任を明確にし、組織体制の見直しを行いました。

- ①役員定数の見直し 理事17名→10名、評議員35名→14名
- ②定款の変更(12月)

(2) 事業運営の透明性の向上

財務諸表・現況報告書・役員報酬の作成と公表のしくみをつくりました。

- ①規程の整備 定款施行細則、評議員選任・解任委員会運営細則、事務局および職員に関する規程、経理規程

(3) 財務規律の強化

⑫ 地域福祉活動のための民間財源の有効活用

社会福祉協議会の財政基盤強化のため自主財源の確保と自主事業の収入増加策を模索すると共に、民間の各種助成事業の活用等収入につながる財源確保にも努めました。

1. 地域福祉活動への意識高揚と、自主財源の確保

社協会員の加入を促進し自主財源の確保に努めました。

	平成 27 年度	平成 28 年度	
	実績額	件数	実績額
一般会費(一口 500 円)	12,190,821 円	各世帯	12,132,519 円
特別会費(一口 1,000 円)	3,114,000 円	1598 件	2,995,000 円
会費合計	15,304,821 円		15,127,519 円

【評価と課題】

一般会費の内、2自治会について足を運び依頼を重ねることによって、ご協力いただけることになりました。一方で少しずつ会費納入額は減少してきており、市民の皆さんに納得してご協力いただけるような方法を検討していく必要があります。

2. 共同募金助成金の有効活用

共同募金助成金は寄付者の賛同が得られるよう、その用途として示されている地域福祉の推進に有効活用できるよう審査委員会等で検討を行いました。

3. 善意銀行の有効活用 (別掲 21,22 ページ)

市民の善意で寄せられる寄付金・物品について、安心して暮らせるまちづくりを進める市民活動等も応援できる、柔軟かつ効果的な運営のしくみづくりをすすめました。

また、善意銀行の有効活用により市全体の助け合いによる福祉向上を図りました。

- (1) 金銭預託・物品預託の受入れ
- (2) リサイクル預託 (アルミ缶、牛乳パック、ベルマーク、使用済プリペイドカード、古切手、ペットボトルキャップ)
- (3) 預託金品等について市内の生活困窮世帯への支援や地域福祉活動をすすめる市民活動等にも活かしていける、柔軟かつ効果的な払い出しのしくみづくり
- (4) 様々な広報活動により市民に善意銀行の啓発
- (5) 寄付物品を有効に活用するための設備整備
 - 善意銀行玄米保冷庫の購入 264,000 円
 - 善意銀行物品用倉庫 1,749,000 円

4. 民間助成金の有効活用

県共同募金会等からの助成金に関する情報収集を行い、有効に活用しました。

(ふれあい基金、しがぎん福祉基金、こども未来基金等)

⑬ 在宅福祉サービス事業のあり方の検討と効果的な運営

1. 介護保険事業のあり方の検討

(1) 管理者全体会議の推進

月に1回の管理者全体会議を開催し、これにより、管理者全体の連携強化とモチベーションアップにつながりました。各事業所の課題を共有し、課題解決に向けて話し合いました。利用者のよりよい支援方法を他職員との共有化を図るツールとして事例検討会議の持ち方の研修を受け、現場で実践することができました。また各チームに分かれ自主的な活動にも取り組みました。

①人材育成（研修）チーム

介護技術の体系的な研修計画と実践にむけて取り組みました。全職員が同じ講師による同じ研修を受けることで、利用者への支援方法の検討会に活かすことができました。

②業務改善チーム

在宅福祉課として提出書類の統一化を図り、事務時間の軽減にむけて話し合いました。提出書類は一部改善されましたが、事務時間を日々の勤務時間にルーティン化させることが課題として残りました。

③広報啓発チーム

パンフレットの効果的な作成について研修に行き、まずは担当チームの事業所のパンフレットを作成しました。全事業所に伝えられなかったため、29年度は他事業所に学んだことを広げます。

④総合事業チーム

訪問介護においては、シルバー人材センターとの話し合いをしましたが、生活支援についての情報交換にとどまりました。介護保険制度に伴う総合事業を見据えて地域で暮らし続けるための支援の仕組みづくりについて引き続き考えていきます。

通所介護においては、要支援の方の居場所づくりについて、特に要支援の利用者が多いデイサービスセンターハートピアの職員を中心に話し合いました。平成29年度には具体的実践に向けた計画づくりを目指します。

(2) 介護職員の人材不足や効率的な運営についての取り組み

職員の不足分については随時、募集しましたがなかなか応募がありませんでした。

非常勤職員の時間数を増やし、事業所間でフォロー体制を作り補ってきました。

やりがいのある職場づくりや体系的な研修制度等働く環境を整えることや事業の整理も視野に入れ職員不足に対応しなければならないと考えています。

①訪問介護事業

訪問介護において平成28年度に比べハートピア・ゆうあいの家は要支援者の利用率が上がっています。30分や1時間単位の身体介護に比べサービス提供金額が低いため、回数や時間が増加しても収益増加につながらない傾向にあります。

しかし、要支援者の中には、入浴の見守り、精神不安、軽度の認知症状をかかえ支援を必要とされる方がおられるため、継続して訪問していく必要があると考

えます。

直行直帰の導入により、移動時間が短縮されたことで時間外勤務も減らすことができ、職員の精神的な負担軽減に繋がりました。また、早出遅出などの時差勤務を組むことで時間外勤務の削減を図ることができました。しかし、職員配置、利用者の増減等があるため、非常に流動的な状況でもあります。安定して、時差勤務が組める体制にするためにはどうするのが今後の課題です。

②通所介護事業

通所介護においても要支援者の比率が上がると収益増加につながらない傾向にあります。現利用者で要支援状態を長く継続されている方もあり、自立支援、生きがいつくりの取り組みを通し、その状態を保たれていることを考えると、継続して事業を行う必要があると考えます。しかし、新総合事業への移行を見据え安定した事業運営のためにはその方法等の検討が必要です。

機能訓練加算についてハートピアでは継続して算定できるようまた、なごみ・ゆうあいの家でも算定できるよう機能訓練の研修を行います。

デイサービスセンターなごみ 特殊浴槽の入れ替え（7月31日）を行いました。

チェアはチルト式（座面、背もたれの角度調整）になっており利用者には安楽な姿勢で入浴できると感じました。また、職員の腰への負担軽減にもつながりました。

(3) 事業所指定更新に係る事前実地指導について

平成28年8月にハートピア、ゆうあいの家、じゅぴあが、1月になごみ、あさひのが実地指導を受けました。

文書による指摘はなかったものの重要事項説明書の表記の修正などの指導があり、即対応し、事業所指定更新ができました。

⑭ 地域福祉を総合的に進めるための体制づくり

1. 経営管理の見直し

(事業管理や財務管理、人事管理、所轄庁等への法務業務等)

財政健全化に向け、具体的な数値目標を掲げ、具体的な取り組みを行いました。

(1) 人事考課制度の導入

職員が、市民サービスの質の向上に向けた取り組みを実施することにより、市民や利用者にとっての評価が向上し、そのことで職員の志気も高まり、組織への所属意識を高めていく循環を醸成するため、人事考課制度導入に向けた検討、制度設計を行いました。

①人事考課プロジェクト（導入に向けた検討） 12回

〈検討結果〉

- ・人事考課の基本的な考え方
- ・社協職員8つの人材プロフィール
- ・人事考課制度の体系

②職員向け説明会

③考課者研修

2. 職員による職場体制づくりについての研修

全体研修や専門研修等市民の期待に応えられる業務が進められるよう、必要な研修を行いました。また、職員にとっても働きやすい職場づくりのため、ありがた検討会を開催しました。

(1) 職員研修

①内部・外部研修

○新任職員研修

(ステップ I 研修(事務 5 名、デイ介護員 1 名)
への参加・施設研修・社協内他事業所での研修)

○役職や業務ごとの階層別研修 (ステップアップ研修への参加)

○専門分野ごとの研修

○事例検討による研修

○人権研修

平成 29 年 2 月 7 日(水) 東近江市五個荘コミュニティーセンター



新任職員研修

職員 140 名参加

『働きやすい職場環境づくり

～笑顔で市民に福祉サービスが提供できる活気ある

職場環境づくりにむけて～』

講師 社会保険労務士 岩井事務所 岩井由紀子氏

②自己啓発研修

(2) よりよい職場環境づくりの推進

すべての職員が、仕事と子育てや介護を両立し、生き生きと働きがいをもって継続勤務できることを目指す新たな 5 ヵ年を期間とした一般事業主行動計画により、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を支援するため、雇用環境の充実を図りました。ノー残業デイを完全実施することでメリハリのある仕事をするできるようになり、ストレスチェックの実施により、自身の状況を客観的に見つめ直すきっかけとなりました。

①職員の勤務あり方検討会 2 回

- ・各課の現状・時間外勤務状況の把握
- ・「働き方改革」を取り巻く状況について

〈実施事項〉

- ・毎週水曜日ノー残業デイの徹底（平成 29 年 1 月から）
- ・月末金曜日ノー残業デイの導入（プレミアムフライデー）
- ・社協全体を見る目を培うため、中堅職員の理事会・評議員会の傍聴

②職員へ夏季特別休暇の完全取得および年次有給を当該年度で最低 5 日以上取得できるよう改善

- ・正規職員平均取得日数 7.8 日

③ストレスチェックの実施

- 1 1 月実施・社会保険加入者対象(133 名)

⑮ 適切な施設の運営・管理

市施設（指定管理）・市社協施設（所有施設）を運営する上で、広く市民からのニーズに応え、安全安心に利用していただけるよう環境整備を行い、地域に開かれた施設として適切な管理を行いました。

1. 市施設の指定管理・運営(2施設)【市指定管理】

○東近江市福祉センターハートピア

【貸館業務】

総合的な福祉センターとして幅広い層の利用があり、貸館での来館をきっかけとした相談・支援なども行いました。

・年間貸館利用者数 1,171件 延べ17,540円

【維持管理業務】

来館者の安全確保を最優先に、清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理および簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

【自主事業】

小地域福祉活動、相談支援事業、地域福祉権利擁護事業、ボランティアセンター事業、子育て支援事業、福祉図書・福祉関係ビデオの貸出、福祉教育事業、訪問介護事業、通所介護事業

○能登川障害福祉センター水車野園

【維持管理業務】

来館者の安全確保を最優先に、清掃や施設・設備点検等の日常巡視点検、保守管理および簡易修繕を行い、施設の健全なる保全を図りました。

【受託事業】

- ・地域生活支援事業 障がい者デイサービス事業
事業実施日数 245日 延べ1,381人
- ・利用者との地域の交流 水車まつり、水車カフェ
- ・サークル活動への施設の開放
- ・障がいの当事者団体への支援および連携
- ・障がいの当事者団体への施設の開放
- ・ボランティア育成、支援および連携

2. 市社協施設の管理・運営(5施設)

○ゆうあいの家

○せせらぎ

○ちやがゆの郷(屋根修繕：1,128,060円)

○かじやの里の新兵衛さん(スプリンクラー等入替：6,048,000円)

○デイサービスセンターあさひの